資料-3

手話に関するアンケート調査の結果（速報値）

令和8年11月
沖縄県生活福祉部
障害福祉課

目 次

第1部 手話を使い生活を営むろう者の数の調査（調査1）.....3

Ⅰ 調査概要.....3
1 調査の目的.....3
2 調査の対象.....3
3 調査の基準日.....3
4 調査の期間.....3
5 調査方法.....3
6 調査の項目.....3
Ⅱ 調査結果の概要.....4
1 基本属性.....4
2 市町村ごとの属性.....6

第2部 第4期沖縄県手話推進計画の策定に向けたアンケート調査（調査2）.....8

Ⅰ 調査概要.....8
1 調査の目的.....8
2 調査の対象.....8
3 調査の基準日.....8
4 調査の期間.....8
5 調査方法.....8
6 回収結果.....9
7 調査項目.....10
Ⅱ 調査結果の概要.....12
1 回答者について.....12
2 手話言語条例等の認知度について.....14
3 あなたの性別・年齢・生活状況について.....17
4 耳の障害に関する質問.....23
5 コミュニケーションの状況に関する質問.....26
6 手話の使用状況に関する質問.....29
7 ろう者への配慮に関する質問.....35
8 情報の入手の状況に関する質問.....55
9 手話通訳者派遣等の利用状況と希望に関する質問.....63
10 災害時等に関する設問.....71
11 手話推進の施策に関する質問.....81
12 沖縄県手話言語条例に関する質問.....85

第1部　手話を使い生活を営むろう者の数の調査（調査1）

Ⅰ　調査概要

1　調査の目的

手話の普及に関する施策を検討するための基礎情報として、市町村ごとの手話を使い生活を営むろう者の実人数等を把握する。

2　調査の対象

県内41市町村

3　調査の基準日

令和8年3月31日

4　調査の期間

令和8年8月10日～8月20日

5　調査方法

市町村で把握している手話を使い生活を営む聴覚障害者の人数とその内訳を調査した。

※　具体的には、令和6年4月1日から令和8年7月末の期間に地域生活支援事業（市町村）の意思疎通支援事業（手話通訳者派遣事業）を個人で利用した聴覚障害者、その他の事業を通じて市町村が把握している手話を使い生活を営む聴覚障害者を抽出

6　調査の項目

市町村で把握している「手話を使い生活を営む聴覚障害者」について、①性別、②年齢、③障害等級（聴覚・総合）を調査した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 基本属性

(1) 年齢階級・性別のクロス

○年齢階層は男女ともに「60歳代」が最も多く、全体の49.0%となっている。
○総数の男女比は、女性が51.2%、男性が48.8%で、女性の割合が高い。

(表1) 年齢階級と性別のクロス
(令和6年4月1日～令和8年7月末手話通訳者派遣事業利用者)

(表1)	総数	男性	女性
総数	514 人 100.0%	251 人 100.0%	263 人 100.0%
10歳未満	1 人 0.2%	0 人 0.0%	1 人 0.4%
10歳以上 20歳未満	3 人 0.6%	2 人 0.8%	1 人 0.4%
20歳以上 30歳未満	17 人 3.3%	4 人 1.6%	13 人 4.9%
30歳以上 40歳未満	22 人 4.3%	10 人 4.0%	12 人 4.6%
40歳以上 50歳未満	41 人 8.0%	18 人 7.2%	23 人 8.7%
50歳以上 60歳未満	64 人 12.5%	23 人 9.2%	41 人 15.6%
60歳以上 70歳未満	252 人 49.0%	132 人 52.6%	120 人 45.6%
70歳以上 80歳未満	91 人 17.7%	50 人 19.9%	41 人 15.6%
80歳以上	23 人 4.5%	12 人 4.8%	11 人 4.2%

（2） 年齢階級・聴覚障害等級のクロス

○全ての年齢階層において、「聴覚2級」の割合が最も多くなっている。

（表2） 年齢階級と聴覚障害等級のクロス

（令和6年4月1日～令和8年7月末手話通訳者派遣事業利用者）

（表2）	合計	聴覚2級	聴覚3級	聴覚4級	聴覚6級	不明
総数	514 人 100.0%	466 人 90.7%	8 人 1.6%	0 人 0.0%	1 人 0.2%	39 人 7.6%
10歳未満	1 人 0.2%	1 人 0.2%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
10歳以上 20歳未満	3 人 0.6%	3 人 0.5%	0 人 0.0%	0 人 0.3%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
20歳以上 30歳未満	17 人 3.3%	16 人 3.4%	1 人 12.5%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
30歳以上 40歳未満	22 人 4.3%	20 人 4.3%	2 人 25.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
40歳以上 50歳未満	41 人 8.0%	40 人 8.6%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	1 人 2.6%
50歳以上 60歳未満	64 人 12.5%	59 人 12.7%	2 人 25.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	3 人 7.7%
60歳以上 70歳未満	252 人 49.0%	227 人 48.7%	2 人 25.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	23 人 59.0%
70歳以上 80歳未満	91 人 17.7%	81 人 17.4%	1 人 12.5%	0 人 0.0%	1 人 100.0%	8 人 20.5%
80歳以上	23 人 4.5%	19 人 4.1%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	4 人 10.3%

<参考>

聴覚2級：両耳の聴力レベルがそれぞれ100dB以上のもの（両耳全ろう）

聴覚3級：両耳の聴力レベルが90dB以上のもの（耳介に接しなければ大声語を理解し得ないもの）

聴覚4級：1. 両耳の聴力レベルが80dB以上のもの（耳介に接しなければ話声語を理解し得ないもの）

2. 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50%以下のもの

聴覚6級：1. 両耳の聴力レベルが70dB以上のもの（40cm以上の距離で発声された会話語を理解し得ないもの）

2. 一側耳の聴力レベルが90dB以上、他側耳の聴力レベルが50dB以上のもの

2 市町村ごとの属性

(1) 市町村ごとの性別クロス

○市町村別には、割合の高い順から「那覇市」16.1%(83人)、「沖縄市」12.1%(62人)、「浦添市」11.9%(61人)などとなっている。

○男性の数が最も多い市町村は、「那覇市」15.5%(39人)、女性の数が最も多い市町村も「那覇市」16.7%(44人)となっている。

(表3) 市町村ごとの性別のクロス

(令和6年4月1日～令和8年7月末手話通訳者派遣事業利用者)

(表3)	総数	男性	女性
市町村名	514 人 100.0%	251 人 100.0%	263 人 100.0%
01那覇市	83 人 16.1%	39 人 15.5%	44 人 16.7%
02宜野湾市	53 人 10.3%	23 人 9.2%	30 人 11.4%
03石垣市	24 人 4.7%	16 人 6.4%	8 人 3.0%
04浦添市	61 人 11.9%	28 人 11.6%	33 人 12.5%
05名護市	16 人 3.1%	8 人 3.2%	8 人 3.0%
06糸満市	10 人 1.9%	4 人 1.6%	6 人 2.3%
07沖縄市	62 人 12.1%	27 人 10.8%	35 人 13.3%
08豊見城市	7 人 1.4%	3 人 1.2%	4 人 1.5%
09うるま市	56 人 10.9%	28 人 11.6%	28 人 10.6%
10宮古島市	34 人 6.6%	19 人 7.6%	15 人 5.7%
11南城市	22 人 4.3%	9 人 3.6%	13 人 4.9%
12国頭村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
13大宜味村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
14東村	1 人 0.2%	0 人 0.0%	1 人 0.4%
15今帰仁村	3 人 0.6%	2 人 0.8%	1 人 0.4%
16本部町	3 人 0.6%	3 人 1.2%	0 人 0.0%
17恩納村	2 人 0.4%	2 人 0.8%	0 人 0.0%
18宜野座村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%

	総数	男性	女性
19金武町	3 人 0.6%	3 人 1.2%	0 人 0.0%
20伊江村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
21読谷村	13 人 2.5%	6 人 2.4%	7 人 2.7%
22嘉手納町	5 人 1.0%	3 人 1.2%	2 人 0.8%
23北谷町	5 人 1.0%	3 人 1.2%	2 人 0.8%
24北中城村	4 人 0.8%	1 人 0.4%	3 人 1.1%
25中城村	7 人 1.4%	4 人 1.6%	3 人 1.1%
26西原町	12 人 2.3%	4 人 1.6%	8 人 3.0%
27与那原町	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
28南風原町	11 人 2.1%	7 人 2.8%	4 人 1.5%
29渡嘉敷村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
30座間味村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
31粟国村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
32渡名喜村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
33南大東村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
34北大東村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
35伊平屋村	1 人 0.2%	1 人 0.4%	0 人 0.0%
36伊是名村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
37久米島町	1 人 0.2%	0 人 0.0%	1 人 0.4%
38八重瀬町	13 人 2.5%	7 人 2.8%	6 人 2.3%
39多良間村	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
40竹富町	2 人 0.4%	1 人 0.4%	1 人 0.4%
41与那国町	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%

第2部　第4期沖縄県手話推進計画の策定に向けたアンケート調査（調査2）

Ⅰ　調査概要

1　調査の目的

手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、手話を使い生活を営むろう者、ろう学校並びに特別支援学校等に在籍する児童・生徒・教職員を対象に手話に関するアンケート調査を実施しました。

2　調査の対象

①手話を使い生活を営むろう者

令和6年4月1日～令和8年7月31日までの期間に手話通訳者派遣事業を利用された聴覚障害のある者

②ろう学校並びに特別支援学校等に在籍する児童・生徒

令和8年4月1日付けで沖縄ろう学校並びに特別支援学校及び難聴学級、言語学級の設置校に在籍する児童・生徒

③ろう学校並びに特別支援学校等の教職員

令和8年4月1日付けで沖縄ろう学校並びに特別支援学校及び難聴学級、言語学級、通級指導教室の設置校に勤務する教職員

④その他

上記の①～③に該当しない方で、手話を使い生活を営む者（沖縄聴覚障害者情報センター、社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会の利用者等）

3　調査の基準日

令和8年3月31日

4　調査の期間

令和8年9月25日～令和8年10月21日

※調査期間後も一定期間回収を継続し、集計に反映した

5　調査方法

○調査票の設計にあたっては、沖縄聴覚障害者情報センター、一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会の協力を得て作成

○調査票の発送は、各市町村を通じて調査対象者世帯へアンケート調査票を郵送配布・回収

○ろう学校並びに特別支援学校等に在籍する児童・生徒・教職員へは、学校へ調査票を郵送配布・回収

○回収方法は、郵送回収と Web 回収を併用

○調査票は原則として本人が記入（調査の趣旨等を本人が希望するコミュニケーション方法で説明できるよう、調査相談窓口を沖縄聴覚障害者情報センターに設置）

6 回収結果

対象者		配布数	回収数	回収率
ろう者	①手話を使い生活を営むろう者	514 票	142 票	27.6%
	④その他（沖縄聴覚障害者情報センター、社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会の利用者等）	29 票	20 票	69.0%
	小計	**543 票**	**162 票**	**29.8%**
児童・生徒、教職員	②ろう学校並びに特別支援学校等に在籍する児童・生徒	251 票	22 票	8.8%
	③ろう学校並びに特別支援学校等に勤務する教職員	211 票	39 票	17.6%
	小計	**462 票**	**61 票**	**13.2%**
属性不明		－	**1 票**	－
合計		**1,005 票**	**224 票**	**22.3%**

※回答者の属性が不明のものが１票

対象者	回収数	回収率
郵送回収	137 票	13.6%
Web 回収	87 票	8.7%
合計	**224 票**	**22.3%**

※令和８年 10 月 31 日時点

7 調査項目

大項目	問	設問要約	設問
1.回答者について	問1	回答者の属性	あなたについて教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問2	記入者	このアンケートに記入いただくのは、次のうちどなたですか。あてはまるもの1つに○をしてください。
2.手話言語条例等の認知度	問3	条例認知度	沖縄県で「手話言語条例」が施行されたことを知っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問4	推進法認知度	「手話に関する施策の推進に関する法律（手話施策推進法）」が施行されたことを知っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
3.性別・年齢・生活状況	問5	性別	性別について、あてはまる方に○をしてください。
	問6	年齢	あなた（あて名のご本人）の年齢をお答えください。
	問7	居住市町村	お住まいの市町村をお答えください。
	問8	同居する家族等の構成	誰と一緒に暮らしていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問8-1	家族等の状況	家族等の中で、耳が聞こえる人、聞こえない人の構成を教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問9	家族とのコミュニケーション手段	家族とのコミュニケーション手段はなんですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。
4.耳の障害に関する質問	問10	聴覚障害の有無	あなたには聴覚障害がありますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問10-1	障害発症年齢	聴覚の障害が生じ始めたのは何歳ごろですか。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問10-2	障害等級	あなたの身体障害者手帳に記載してある聴覚障害の等級について、あてはまるものに○をしてください。
	問11	聴覚以外の障害の有無	聴覚以外に障害はありますか。ある場合はどのような障害ですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。
5.コミュニケーションの状況	問12	補聴器または人工内耳の有無	補聴器または人工内耳の使用について、あてはまるもの1つに○をしてください。
	問13	コミュニケーション手段	人と話すとき、あるいは人に何かをたずねるとき、最もスムーズにコミュニケーションできる方法について、あてはまるもの1つに○をしてください。
	問14	聞こえる人とのコミュニケーションの状況	手話などを知らない健常者の言いたいことを、どの程度理解することができますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
6.手話の使用状況	問15	手話使用の有無	あなたは手話で会話しますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問15-1	手話を取得した時期	あなたが手話を覚え始めた年齢（年代）を教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問15-2	手話を取得した場所	あなたが手話を覚えた（身につけた）ところはどこですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。
	問15-3	手話を取得したきっかけ	あなたが手話を覚えた（身につけた）きっかけは何ですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。
	問15-4	生活における手話の使用状況	あなたは生活のなかで、手話を使いたいときに十分に使うことができていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問15-5	手話を使用しない理由	あなたが手話で会話しない理由は何ですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。
7.ろうしゃへの配慮	問16	場面ごとの配慮の有無	あなたが下記の場面を利用する際に手話通訳や筆談などの配慮がありましたか。それぞれあてはまるもの1つに○をしてください。
	問17-1	配慮の具体例	【問16で「ある」と答えた方】ろう者に対する配慮の具体れがありましたら、ご自由にお書きください。
	問17-2	配慮がなかった具体例	【問16で「ない」と答えた方】ろう者に対する配慮がなかった場面の具体例がありましたら、ご自由にお書きください。
8.情報入手の状況	問18	情報入手手段	あなたはご自分の関心のあるニュースなどの情報をどこから得ますか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。
	問19	ICT活用状況	スマートフォンやパソコンなどのICT技術を活用してどの程度情報を入手できていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

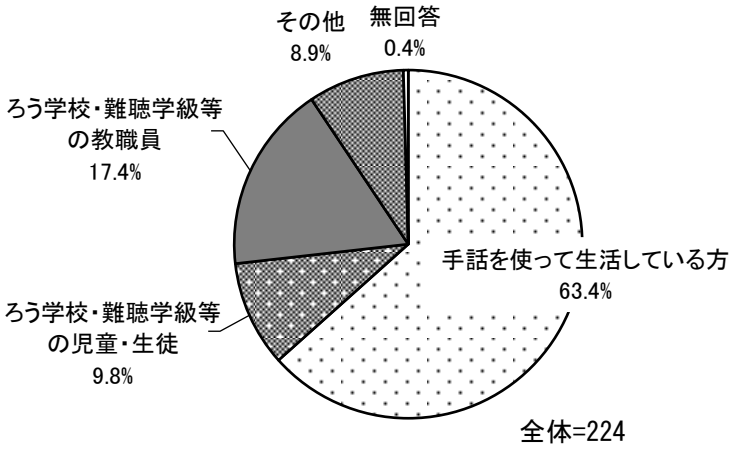
	問20	情報入手で配慮してほしいこと	あなたがスマートフォンやパソコンで情報を入手する上で配慮してほしいことは何ですか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。
9.手話通訳者派遣等の利用状況	問21	サービスの利用有無	あなたは日常生活を送るうえで、手話通訳者派遣等を利用していますか。いずれか1つに○をしてください。
	問21-1	サービスの利用頻度	以下にあげる手話通訳者派遣等それぞれについて、受けている回数にもっとも近いもの1つに○をしてください。
	問21-2	サービスに対する困りごと	これまで、手話通訳者派遣、要約筆記者派遣、盲ろう者向け通訳・介助員派遣を利用して、何か不便なことや困ったことはありましたか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。
	問21-3	サービスを利用しない理由	利用していない(利用したいと思わない、わからない)のはどうしてですか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。
	問22	今後の利用意向	あなたは日常生活を送るうえで、今後、手話通訳者派遣等の利用を希望しますか。いずれか1つに○をしてください。
	問22-1	今後の利用頻度	今後、手話通訳者派遣等をどれくらい利用したいですか。あてはまるもの1つに○をしてください。
10.災害時等の状況	問23	災害・避難・感染症等に関する情報の理解状況	災害時の情報や避難方法、感染症の情報や感染予防など、あなたが理解していることや行っていることを教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。
	問24	災害情報の入手先	あなたは災害情報をどこで入手していますか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。
11.手話推進の施策に関する質問	問25	手話施策に対する満足度、優先度	現在、沖縄県が取り組んでいる手話の普及に関する施策のことについてお聞きします。また、今後、特に取り組んでほしいことについてもお聞きします。
自由意見	問26	手話に対する理解促進等に関する意見	本条例では、手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、ろう者とろう者以外の者が共存することのできる地域社会を実現することを目的としています。 手話に対する理解促進、手話を使用しやすい環境づくりを図るにあたって、必要だと感じることがあれば、ご自由にお書きください。

Ⅱ　調査結果の概要

1 回答者について

問1　あなたについて教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。

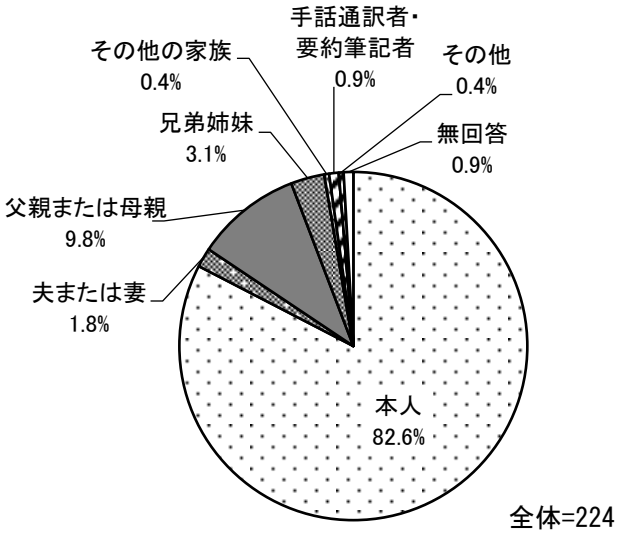
○アンケートの回答者について、「手話を使っている方」が63.4%、「ろう学校・難聴学級等の児童・生徒」が9.8%、「ろう学校・難聴学級等の教職員」が17.4%、「その他」が8.9%となっている。



回答	手話を使って生活している方	ろう学校・難聴学級等の児童・生徒	ろう学校・難聴学級等の教職員	その他	無回答	全体
全体	142	22	39	20	1	224
	63.4%	9.8%	17.4%	8.9%	0.4%	100.0%

問2　このアンケートに記入いただくのは、次のうちどなたですか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○アンケートの記入者について、「本人」が82.6%で最も多い。



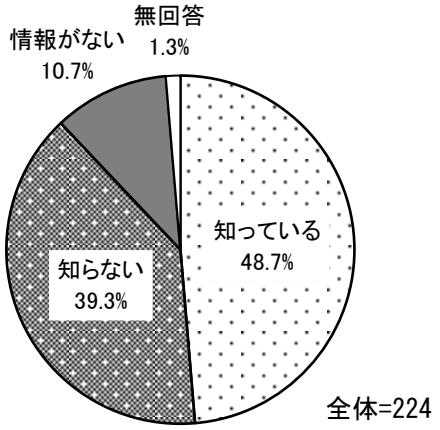
回答	本人	夫または妻	父親または母親	兄弟姉妹	本人の子ども	その他の家族	手話通訳者・要約筆記者
全体	185	4	22	7	0	1	2
	82.6%	1.8%	9.8%	3.1%	0.0%	0.4%	0.9%

回答	盲ろう者向け通訳・介助員	その他	無回答	全体
全体	0	1	2	224
	0.0%	0.4%	0.9%	100.0%

2 手話言語条例等の認知度について

問3 沖縄県で「手話言語条例」が施行されたことを知っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

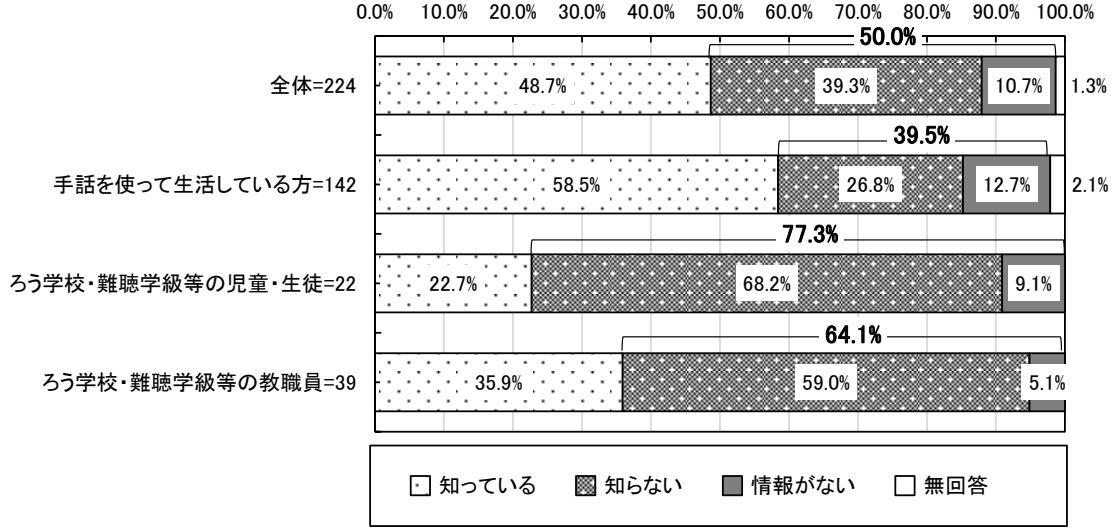
○手話言語条例について、「知っている」が48.7%、「知らない」が39.3%、「情報がない」が10.7%となっている。



回答	知っている	知らない	情報がない	無回答	全体
全体=224	109	88	24	3	224
	48.7%	39.3%	10.7%	1.3%	100.0%

■【問1 回答者の属性×問3 条例認知度 クロス集計】

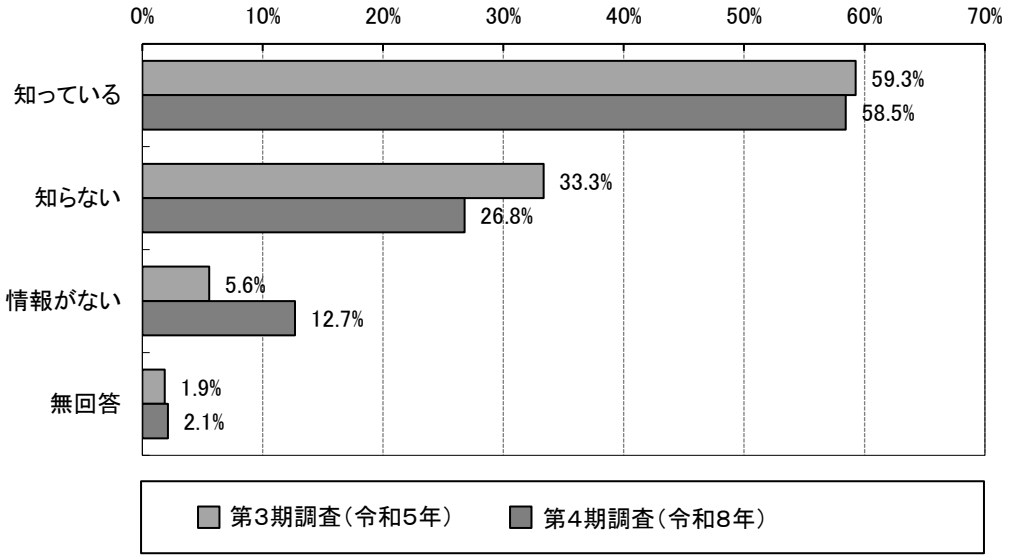
○回答者の属性とのクロス集計結果を見ると、手話を使って生活している方は「知っている」が58.5%、ろう学校・難聴学級等の児童・生徒は「知らない」が68.2%、ろう学校・難聴学級の教職員は「知らない」が59.0%で最も多い結果となっている。



回答	知っている	知らない	情報がない	無回答	全体
手話を使って生活している方=142	83	38	18	3	142
	58.5%	26.8%	12.7%	2.1%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	5	15	2	0	22
	22.7%	68.2%	9.1%	0.0%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	14	23	2	0	39
	35.9%	59.0%	5.1%	0.0%	100.0%

■**【過去調査との比較】** ※第4期調査は問1にて「手話を使って生活している方」の回答結果を反映

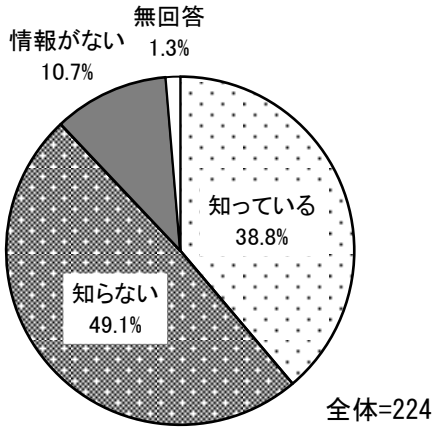
○過去調査との比較を見ると、「知っている」が第3期調査では59.3%に対して、第4期調査では58.5%で0.8%低下している。



回答	知っている	知らない	情報がない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	96	54	9	3	162
	59.3%	33.3%	5.6%	1.9%	100.0%
第４期調査（令和８年）	83	38	18	3	142
	58.5%	26.8%	12.7%	2.1%	100.0%

問4 「手話に関する施策の推進に関する法律(手話施策推進法)」が施行されたことを知っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

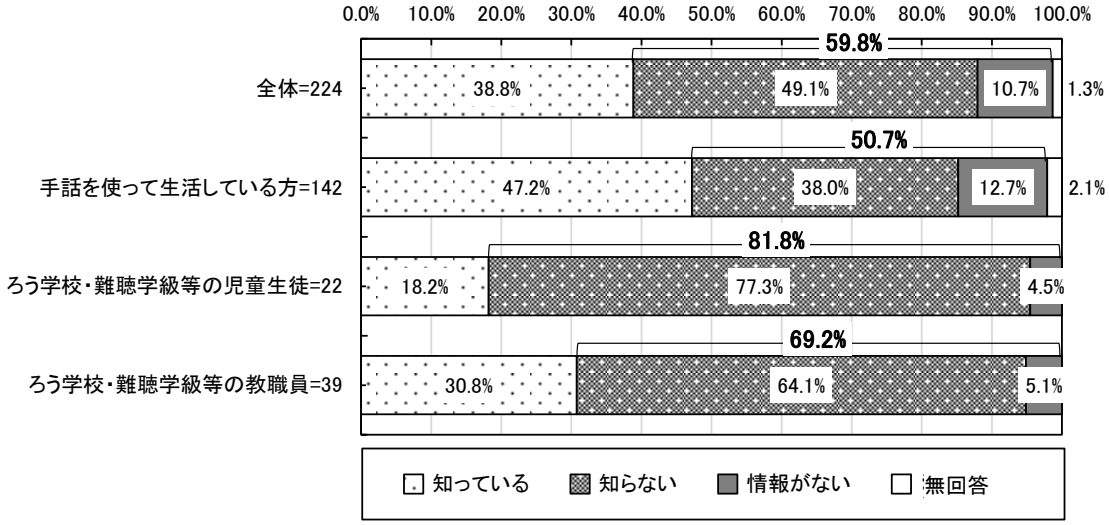
○手話施策推進法について、「知っている」が38.8%、「知らない」が49.1%、「情報がない」が10.7%となっている。



回答	知っている	知らない	情報がない	無回答	全体
全体=224	87	110	24	3	224
	38.8%	49.1%	10.7%	1.3%	100.0%

■【問1 回答者の属性×問4 推進法認知度 クロス集計】

○回答者の属性とのクロス集計結果を見ると、手話を使って生活している方は「知っている」が47.2%、ろう学校・難聴学級等の児童・生徒は「知らない」が77.3%、ろう学校・難聴学級の教職員は「知らない」が64.1%で最も多い結果となっている。

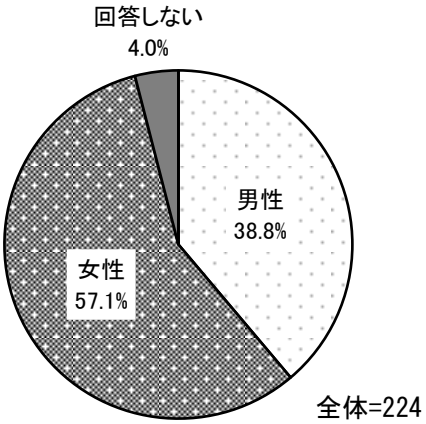


回答	知っている	知らない	情報がない	無回答	全体
手話を使って生活している方=142	67	54	18	3	142
	47.2%	38.0%	12.7%	2.1%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童生徒=22	4	17	1	0	22
	18.2%	77.3%	4.5%	0.0%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	12	25	2	0	39
	30.8%	64.1%	5.1%	0.0%	100.0%

3 あなたの性別・年齢・生活状況について

問5 性別について、あてはまる方に○をしてください。

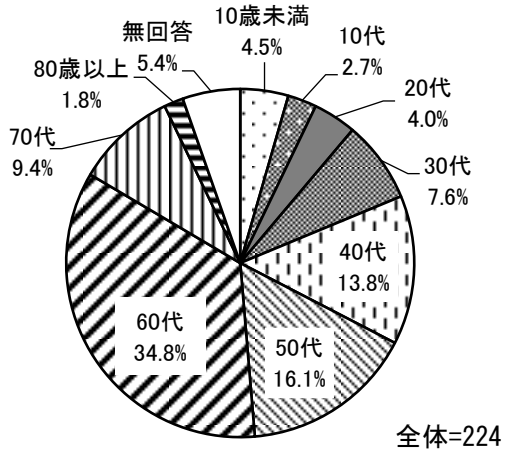
○対象者の性別について、「男性」が38.8%、「女性」が57.1%となっている。



回答	男性	女性	回答しない	無回答	全体
全体	87	128	9	0	224
	38.8%	57.1%	4.0%	0.0%	100.0%

問6 あなた(あて名のご本人)の年齢をお答えください。

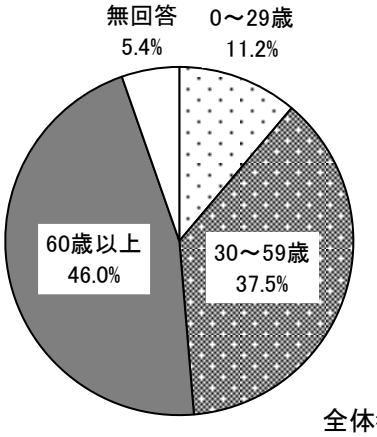
○対象者の年齢について、「60代」が34.8%で最も多く、次いで「50代」が16.1%、「40代」が13.8%などとなっている。



回答	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代
全体	10	6	9	17	31	36	78
	4.5%	2.7%	4.0%	7.6%	13.8%	16.1%	34.8%

回答	70代	80歳以上	無回答	全体
全体	21	4	12	224
	9.4%	1.8%	5.4%	100.0%

○0～29歳、30～59歳、60歳以上に分類すると、「0～29歳」は11.2%、「30～59歳」は37.5%、「60歳以上」は46.0%となっている。



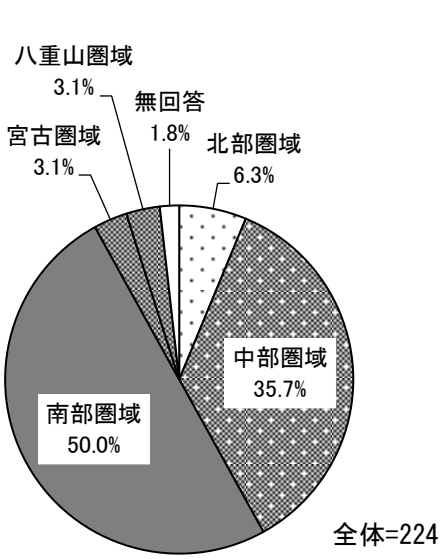
全体=224

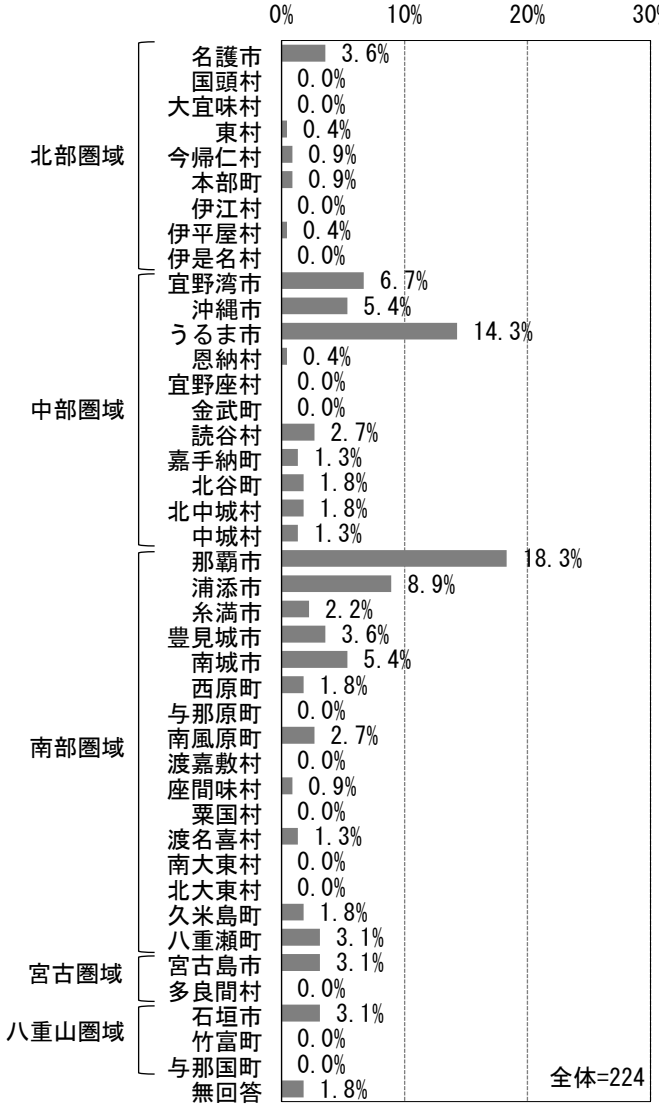
回答	0～29歳	30～59歳	60歳以上	無回答	全体
全体	25	84	103	12	224
	11.2%	37.5%	46.0%	5.4%	100.0%

問7　お住まいの市町村をお答えください。

○対象者の居住市町村について、圏域別では「南部圏域」が50.0%で最も多く、次いで「中部圏域」が35.7%、「北部圏域」が6.3%、「宮古圏域」・「八重山圏域」がそれぞれ3.1%となっている。

○市町村別では、「那覇市」が18.3%で最も多く、次いで「うるま市」が14.3%、「浦添市」が8.9%などとなっている。





回答	北部圏域	中部圏域	南部圏域	宮古圏域	八重山圏域	無回答	全体
全体	14	80	112	7	7	4	224
	6.3%	35.7%	50.0%	3.1%	3.1%	1.8%	100.0%

回答	名護市	国頭村	大宜味村	東村	今帰仁村	本部町	伊江村	伊平屋村
全体	8	0	0	1	2	2	0	1
	3.6%	0.0%	0.0%	0.4%	0.9%	0.9%	0.0%	0.4%

回答	伊是名村	宜野湾市	沖縄市	うるま市	恩納村	宜野座村	金武町	読谷村
全体	0	15	12	32	1	0	0	6
	0.0%	6.7%	5.4%	14.3%	0.4%	0.0%	0.0%	2.7%

回答	嘉手納町	北谷町	北中城村	中城村	那覇市	浦添市	糸満市	豊見城市
全体	3	4	4	3	41	20	5	8
	1.3%	1.8%	1.8%	1.3%	18.3%	8.9%	2.2%	3.6%

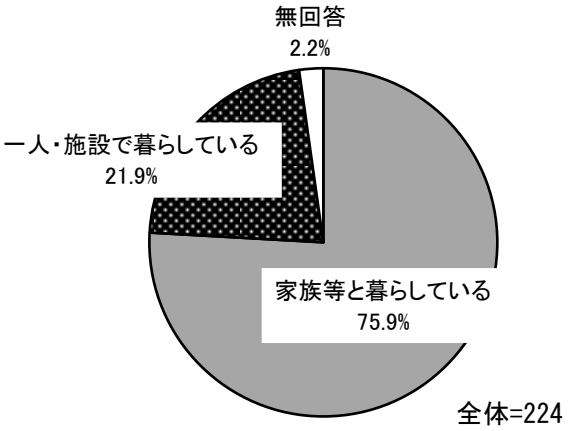
回答	南城市	西原町	与那原町	南風原町	渡嘉敷村	座間味村	粟国村	渡名喜村
全体	12	4	0	6	0	2	0	3
	5.4%	1.8%	0.0%	2.7%	0.0%	0.9%	0.0%	1.3%

回答	南大東村	北大東村	久米島町	八重瀬町	宮古島市	多良間村	石垣市	竹富町
全体	0	0	4	7	7	0	7	0
	0.0%	0.0%	1.8%	3.1%	3.1%	0.0%	3.1%	0.0%

回答	与那国町	無回答	全体
全体	0	4	224
	0.0%	1.8%	100.0%

問8　誰と一緒に暮らしていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○家族等の構成について、「家族等と暮らしている」が75.9%、「一人・施設で暮らしている」が21.9%となっている。

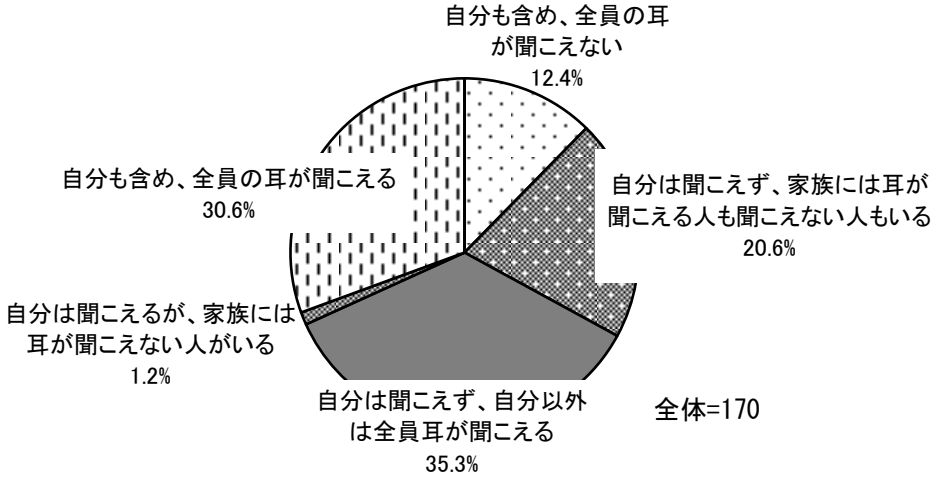


回答	家族等と暮らしている	一人・施設で暮らしている	無回答	全体
全体	170	49	5	224
	75.9%	21.9%	2.2%	100.0%

【問8で「家族等と暮らしている」と回答した方のみ】

問8-1　家族等の中で、耳が聞こえる人、聞こえない人の構成を教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。

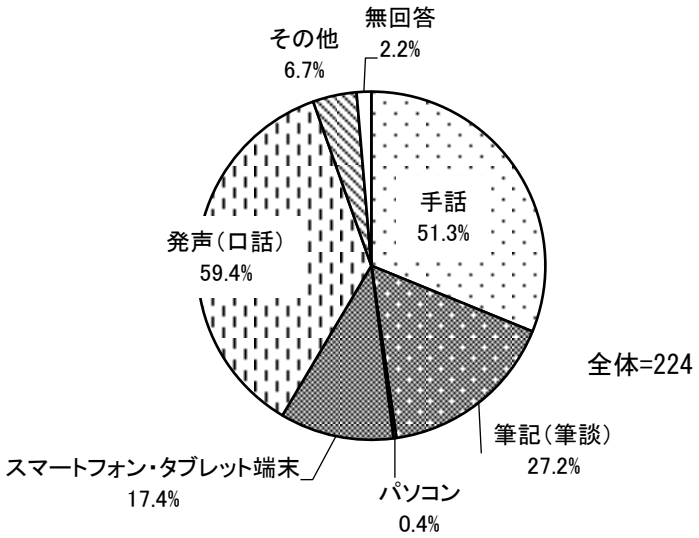
○家族等の状況について、「自分は聞こえず、自分以外は全員耳が聞こえる」が35.3%で最も多く、次いで「自分も含め、全員の耳が聞こえる」が30.6%、「自分は聞こえず、家族には耳が聞こえる人も聞こえない人もいる」が20.6%となっている。



回答	自分も含め、全員の耳が聞こえない	自分は聞こえず、家族には耳が聞こえる人も聞こえない人もいる	自分は聞こえず、自分以外は全員耳が聞こえる	自分は聞こえるが、家族には耳が聞こえない人がいる	自分も含め、全員の耳が聞こえる	無回答	全体
全体	21	35	60	2	52	0	170
	12.4%	20.6%	35.3%	1.2%	30.6%	0.0%	100.0%

問9　家族とのコミュニケーション手段はなんですか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。

○家族とのコミュニケーション手段について、「発声(口話)」が59.4%で最も多く、次いで「手話」が51.3%、「筆記(筆談)」が27.2%などとなっている。



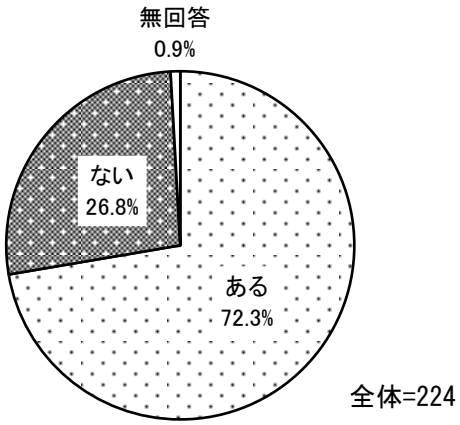
回答	手話	筆記（筆談）	パソコン	スマートフォン・タブレット端末	発声（口話）	その他	無回答	全体
全体	115	61	1	39	133	15	5	224
	51.3%	27.2%	0.4%	17.4%	59.4%	6.7%	2.2%	100.0%

4 耳の障害に関する質問

問10 あなたには聴覚障害がありますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○聴覚障害の有無について、「ある」が72.3%、「ない」が26.8%となっている。

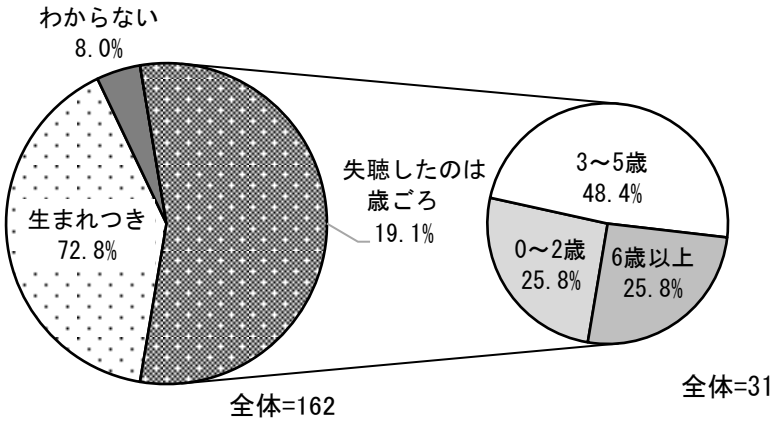
回答	ある	ない	無回答	全体
全体	162	60	2	224
	72.3%	26.8%	0.9%	100.0%



【問10で「ある」と回答した方のみ】

問10-1 聴覚の障害が生じ始めたのは何歳ごろですか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○聴覚の障害が生じ始めた時期は、「生まれつき」が72.8%で最も多く、次いで「3～5歳」が48.4%、「0～2歳」・「6歳以上」がそれぞれ25.8%などとなっている。



回答	生まれつき	失聴したのは	わからない	無回答	全体
全体	118	31	13	0	162
	72.8%	19.1%	8.0%	0.0%	100.0%

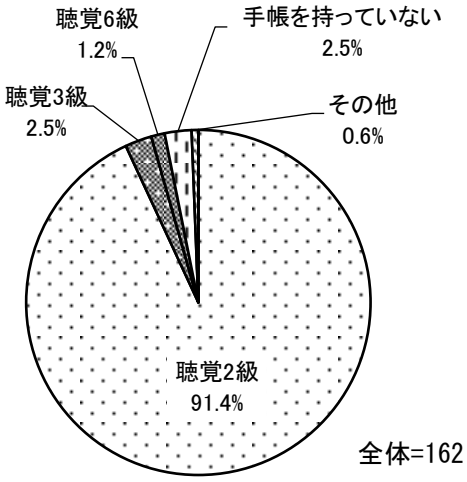
失聴したのは 歳ごろ 内訳表

回答	0～2歳	3～5歳	6歳以上	全体
全体=31	8	15	8	31
	25.8%	48.4%	25.8%	100.0%

【問10で「ある」と回答した方のみ】

問10-2　あなたの身体障害者手帳に記載してある聴覚障害の等級について、あてはまるものに○をしてください。

○聴覚障害の等級は、「聴覚2級」が91.4%で最も多い。



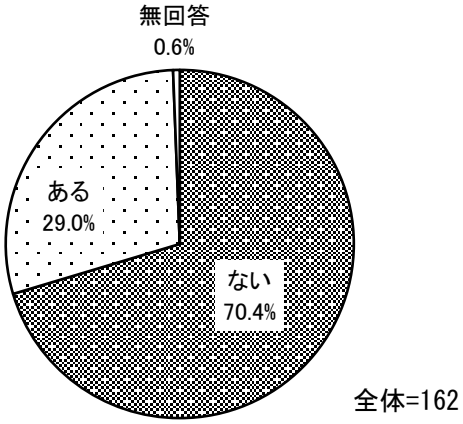
回答	聴覚2級	聴覚3級	聴覚4級	聴覚6級	手帳を持っていない	その他	無回答	全体
全体	148	4	0	2	4	1	0	162
	91.4%	2.5%	0.0%	1.2%	2.5%	0.6%	0.0%	100.0%

【問10で「ある」と回答した方のみ】

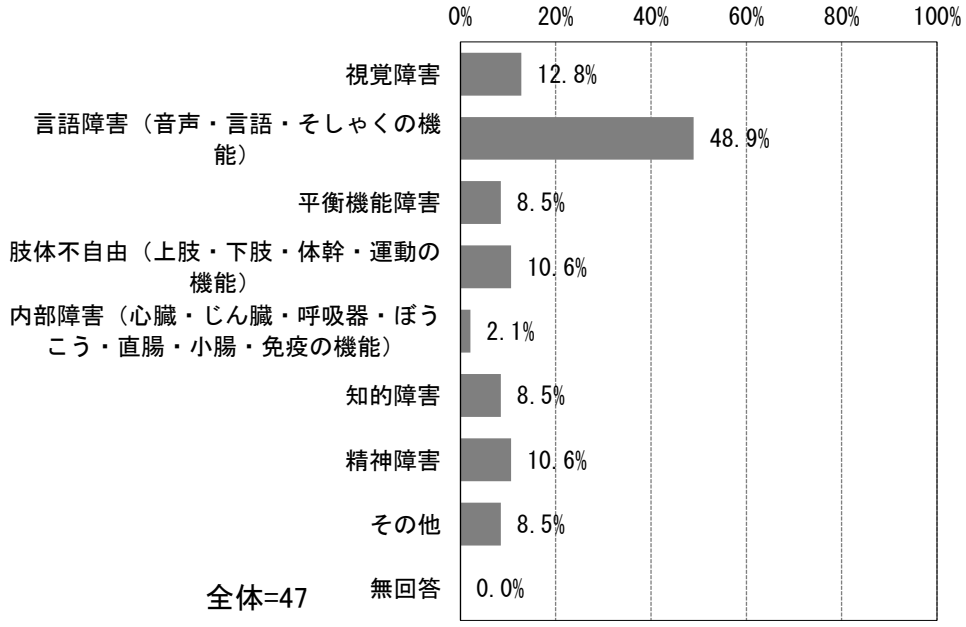
問11　聴覚以外に障害はありますか。ある場合はどのような障害ですか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。

○聴覚障害以外の障害の有無について、「ない」が70.4%で最も多く、「ある」が29.0%となっている。

回答	ない	ある	無回答	全体
全体	114	47	1	162
	70.4%	29.0%	0.6%	100.0%



○聴覚障害以外の障害が「ある」と答えた人のうち、障害の種類は、「言語障害（音声・言語・そしゃくの機能）」が48.9%で最も多く、次いで「視覚障害」が12.8%、「肢体不自由（上肢・下肢・体幹・運動の機能」・「精神障害」がそれぞれ10.6%などとなっている。



回答	視覚障害	言語障害（音声・言語・そしゃくの機能）	平衡機能障害	肢体不自由（上肢・下肢・体幹・運動の機能）	内部障害（心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸・免疫の機能）	知的障害	精神障害
全体	6	23	4	5	1	4	5
	12.8%	48.9%	8.5%	10.6%	2.1%	8.5%	10.6%

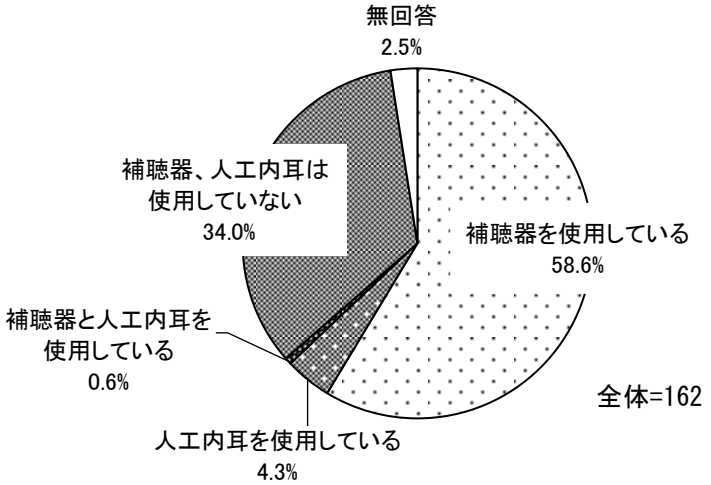
回答	その他	無回答	全体
全体	4	0	47
	8.5%	0.0%	100.0%

5 コミュニケーションの状況に関する質問

【問10で「ある」と回答した方のみ】

問12 補聴器または人工内耳の使用について、あてはまるもの1つに○をしてください。

○補聴器または人工内耳の使用について、「補聴器を使用している」が58.6%で最も多く、次いで「補聴器、人工内耳は使用していない」が34.0%などとなっている。

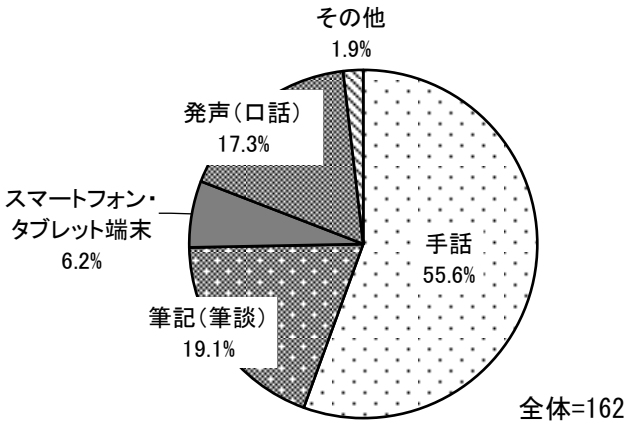


回答	補聴器を使用している	人工内耳を使用している	補聴器と人工内耳を使用している	補聴器、人工内耳は使用していない	無回答	全体
全体	95	7	1	55	4	162
	58.6%	4.3%	0.6%	34.0%	2.5%	100.0%

【問10で「ある」と回答した方のみ】

問13 人と話すとき、あるいは人に何かをたずねるとき、最もスムーズにコミュニケーションできる方法について、あてはまるもの1つに○をしてください。

○最もスムーズにコミュニケーションできる方法は、「手話」が55.6%で最も多く、次いで「筆記(筆談)」が19.1%、「発声(口話)」が17.3%などとなっている。

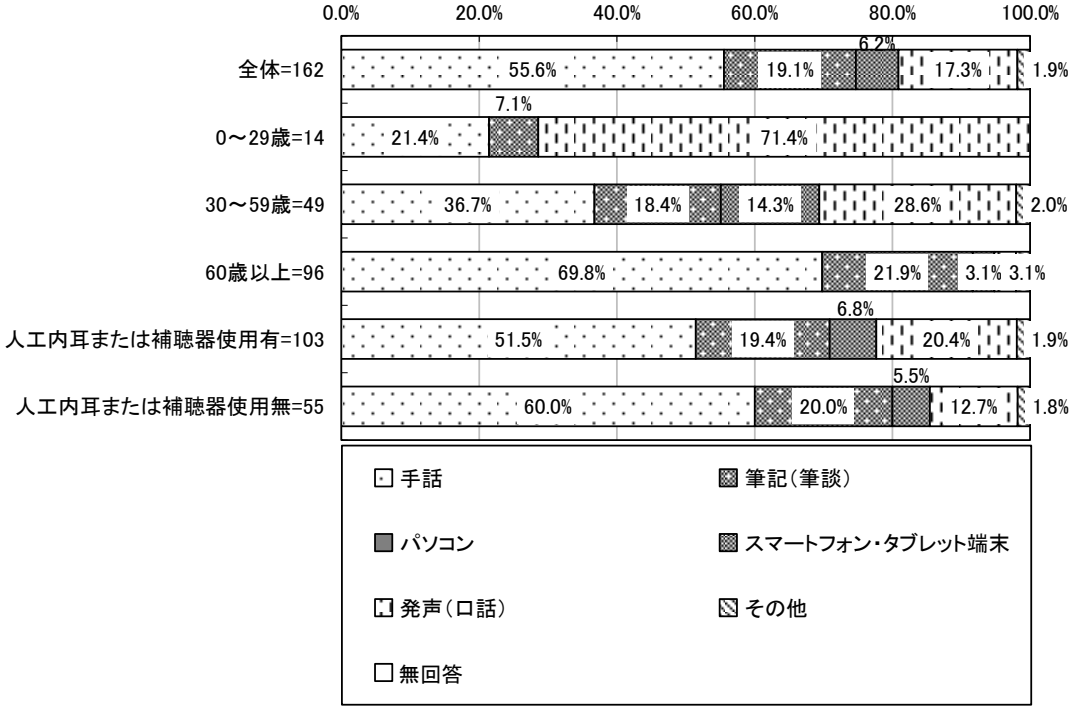


回答	手話	筆記（筆談）	パソコン	スマートフォン・タブレット端末	発声（口話）	その他	無回答	全体
全体=162	90	31	0	10	28	3	0	162
	55.6%	19.1%	0.0%	6.2%	17.3%	1.9%	0.0%	100.0%

■【問6　年齢×問13　コミュニケーション手段
　問12　補聴器または人工内耳の有無×問13　コミュニケーション手段　　クロス集計】

○年齢とのクロス集計結果を見ると、0～29歳は「発声(口話)」が71.4%、30～59歳は「手話」が36.7%、60歳以上は「手話」が69.8%で最も多い結果となっている。

○補聴器または人工内耳の有無とのクロス集計結果を見ると、人工内耳または補聴器使用が有る方・人工内耳または補聴器使用が無い方ともに「手話」が最も多い結果となっている。

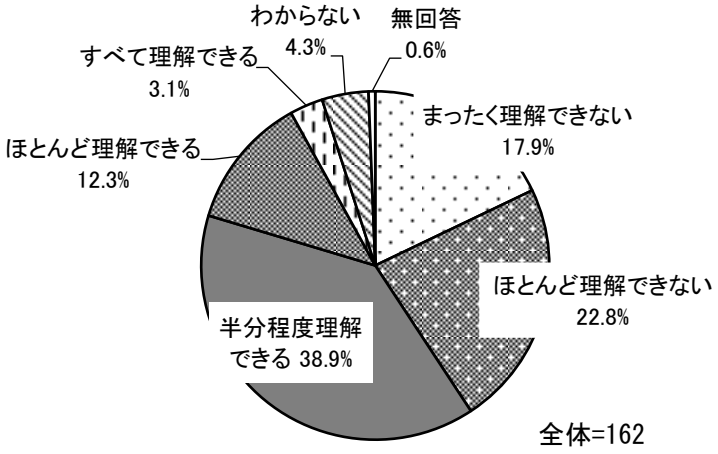


回答	手話	筆記（筆談）	パソコン	スマートフォン・タブレット端末	発声（口話）	その他	無回答	全体
0～29歳=14	3	1	0	0	10	0	0	14
	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	71.4%	0.0%	0.0%	100.0%
30～59歳=49	18	9	0	7	14	1	0	49
	36.7%	18.4%	0.0%	14.3%	28.6%	2.0%	0.0%	100.0%
60歳以上=96	67	21	0	3	3	2	0	96
	69.8%	21.9%	0.0%	3.1%	3.1%	2.1%	0.0%	100.0%
人工内耳または補聴器使用有=103	53	20	0	7	21	2	0	103
	51.5%	19.4%	0.0%	6.8%	20.4%	1.9%	0.0%	100.0%
人工内耳または補聴器使用無=55	33	11	0	3	7	1	0	55
	60.0%	20.0%	0.0%	5.5%	12.7%	1.8%	0.0%	100.0%

【問10で「ある」と回答した方のみ】

問14　手話などを知らない健常者の言いたいことを、どの程度理解することができますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○健常者の言いたいことの理解の程度については、「半分程度理解できる」が38.9%で最も多く、次いで「ほとんど理解できない」が22.8%、「まったく理解できない」が17.9%などとなっている。



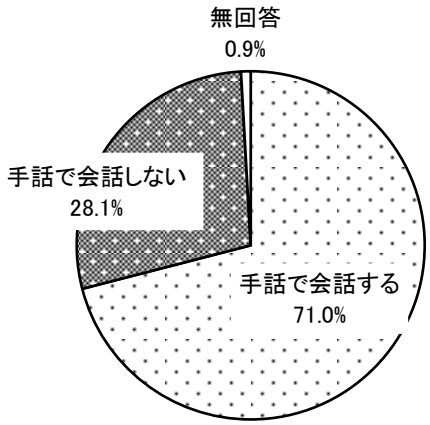
回答	まったく理解できない	ほとんど理解できない	半分程度理解できる	ほとんど理解できる	すべて理解できる	わからない	無回答	全体
全体	29	37	63	20	5	7	1	162
	17.9%	22.8%	38.9%	12.3%	3.1%	4.3%	0.6%	100.0%

6 手話の使用状況に関する質問

問15 あなたは手話で会話しますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○手話の使用については、「手話で会話する」が71.0%で最も多く、次いで「手話で会話しない」が28.1%となっている。

回答	手話で会話する	手話で会話しない	無回答	全体
全体	159	63	2	224
	71.0%	28.1%	0.9%	100.0%

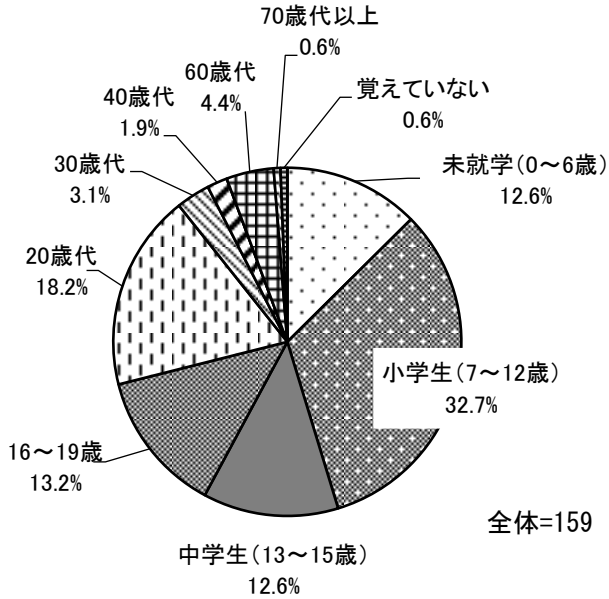


全体=224

【問15で「手話で会話する」と回答した方のみ】

問15-1 あなたが手話を覚え始めた年齢(年代)を教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。

○手話を覚え始めた年齢(年代)については、「小学生」が32.7%で最も多く、次いで「20歳代」が18.2%、「16～19歳」が13.2%などとなっている。



全体=159

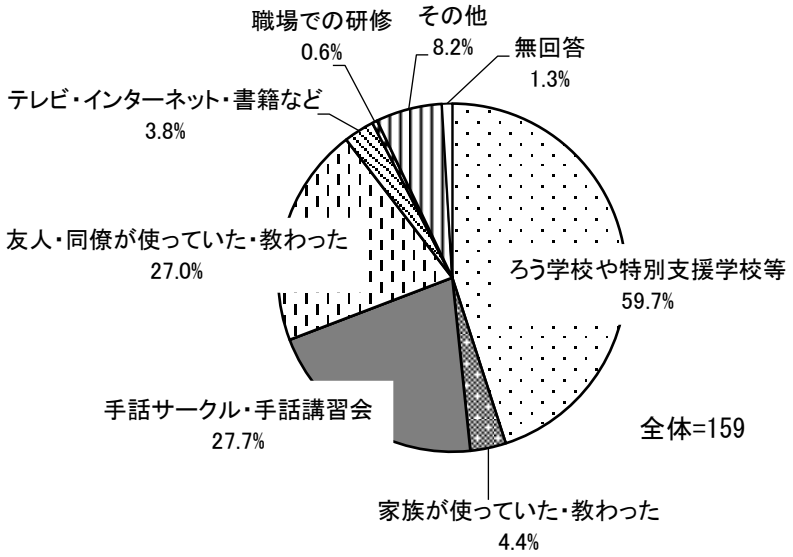
回答	未就学（0～6歳）	小学生（7～12歳）	中学生（13～15歳）	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代
全体	20	52	20	21	29	5	3
	12.6%	32.7%	12.6%	13.2%	18.2%	3.1%	1.9%

回答	50歳代	60歳代	70歳代以上	覚えていない	無回答	全体
全体	0	7	1	1	0	159
	0.0%	4.4%	0.6%	0.6%	0.0%	100.0%

【問15で「手話で会話する」と回答した方のみ】

問15-2　あなたが手話を覚えた（身につけた）ところはどこですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。

○手話を覚えた（身につけた）ところについては、「ろう学校や特別支援学校等」が59.7%で最も多く、次いで「手話サークル・手話講習会」が27.7%、「友人・同僚が使っていた・教わった」が27.0%などとなっている。

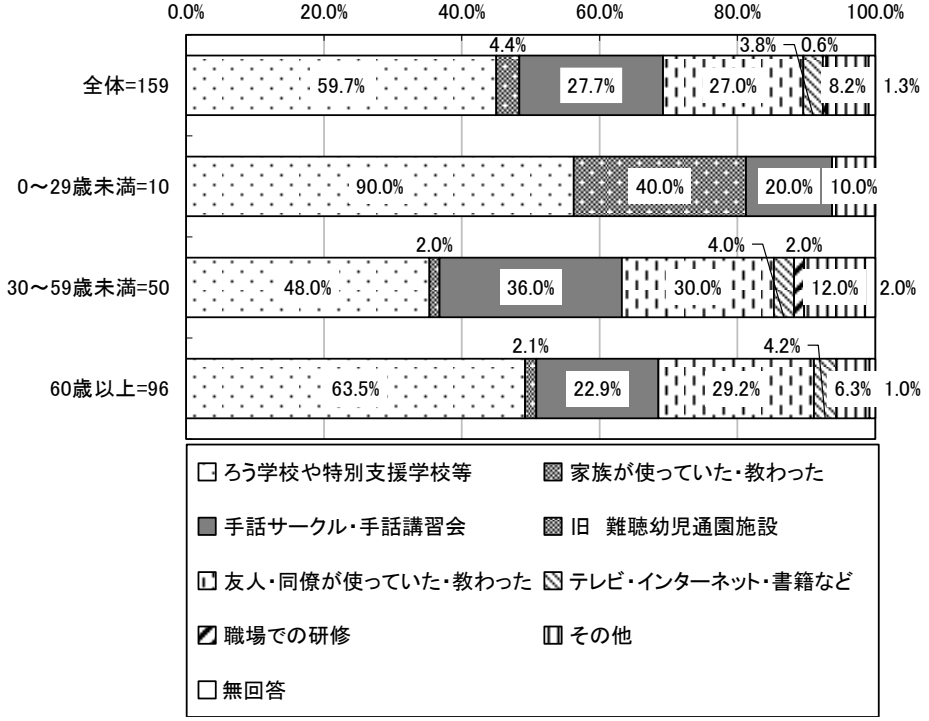


回答	ろう学校や特別支援学校等	家族が使っていた・教わった	手話サークル・手話講習会	旧　難聴幼児通園施設	友人・同僚が使っていた・教わった	テレビ・インターネット・書籍など
全体=159	95	7	44	0	43	6
	59.7%	4.4%	27.7%	0.0%	27.0%	3.8%

回答	職場での研修	その他	無回答	全体
全体=159	1	13	2	159
	0.6%	8.2%	1.3%	100.0%

■【問6 年齢×問15-2 手話を取得した場所　　クロス集計】

○年齢とのクロス集計結果を見ると、0～29歳・30～59歳・60歳以上ともに「ろう学校や特別支援学校等」が最も多い結果となっている。



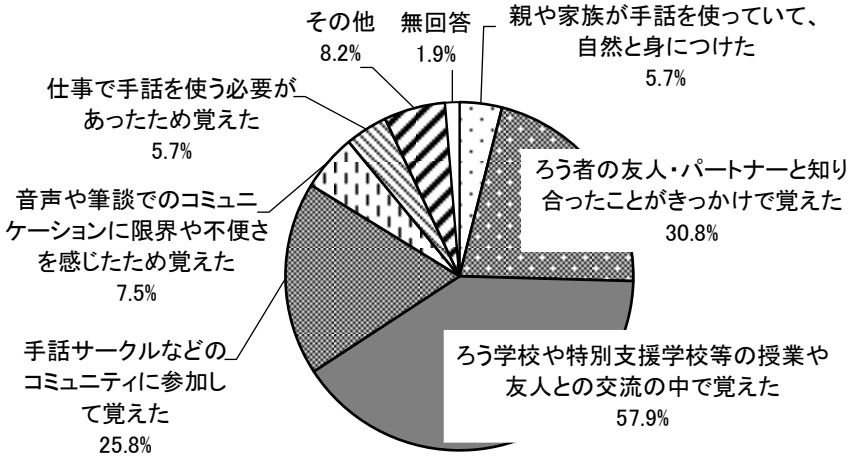
回答	ろう学校や特別支援学校等	家族が使っていた・教わった	手話サークル・手話講習会	旧　難聴幼児通園施設	友人・同僚が使っていた・教わった	テレビ・インターネット・書籍など
0～29歳未満=10	9	4	2	0	0	0
	90.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30～59歳未満=50	24	1	18	0	15	2
	48.0%	2.0%	36.0%	0.0%	30.0%	4.0%
60歳以上=96	61	2	22	0	28	4
	63.5%	2.1%	22.9%	0.0%	29.2%	4.2%

回答	職場での研修	その他	無回答	全体
0～29歳未満=10	0	1	0	10
	0.0%	10.0%	0.0%	100.0%
30～59歳未満=50	1	6	1	50
	2.0%	12.0%	2.0%	100.0%
60歳以上=96	0	6	1	96
	0.0%	6.3%	1.0%	100.0%

【問15で「手話で会話する」と回答した方のみ】

問15-3　あなたが手話を覚えた（身につけた）きっかけは何ですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。

○手話を覚えた（身につけた）きっかけについては、「ろう学校や特別支援学校等の授業や友人との交流の中で覚えた」が57.9%で最も多く、次いで「ろう者の友人・パートナーと知り合ったことがきっかけで覚えた」が30.8%、「手話サークルなどのコミュニティに参加して覚えた」が25.8%などとなっている。



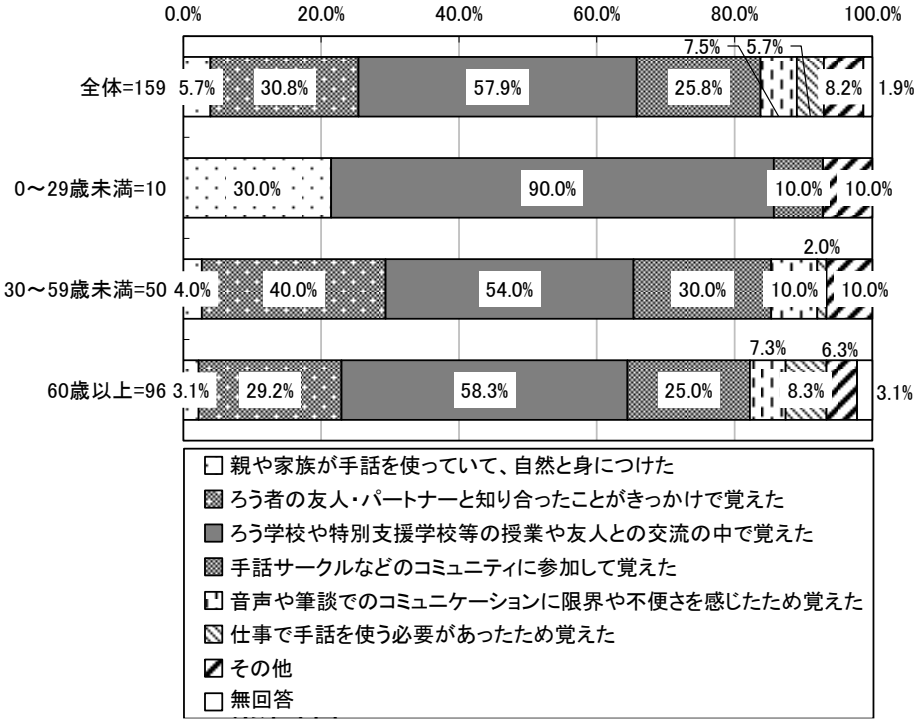
全体=159

回答	親や家族が手話を使っていて、自然と身につけた	ろう者の友人・パートナーと知り合ったことがきっかけで覚えた	ろう学校や特別支援学校等の授業や友人との交流の中で覚えた	手話サークルなどのコミュニティに参加して覚えた	音声や筆談でのコミュニケーションに限界や不便さを感じたため覚えた	仕事で手話を使う必要があったため覚えた
全体=159	9	49	92	41	12	9
	5.7%	30.8%	57.9%	25.8%	7.5%	5.7%

回答	その他	無回答	全体
全体=159	13	3	159
	8.2%	1.9%	100.0%

■【問6　年齢×問15-3　手話を取得したきっかけ　　クロス集計】

○年齢とのクロス集計結果を見ると、0～29歳・30～59歳・60歳以上ともに「ろう学校や特別支援学校等の授業や友人との交流の中で覚えた」が最も多い結果となっている。



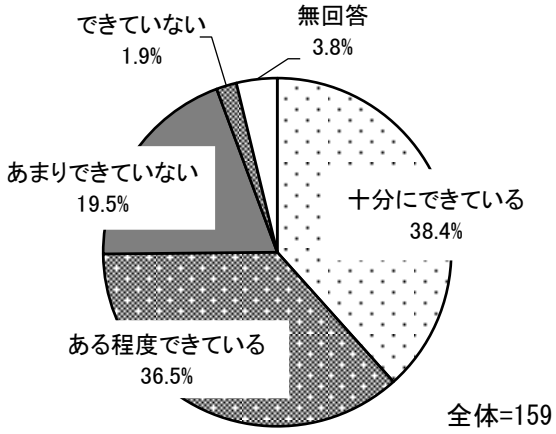
回答	親や家族が手話を使っていて、自然と身につけた	ろう者の友人・パートナーと知り合ったことがきっかけで覚えた	ろう学校や特別支援学校等の授業や友人との交流の中で覚えた	手話サークルなどのコミュニティに参加して覚えた	音声や筆談でのコミュニケーションに限界や不便さを感じたため覚えた	仕事で手話を使う必要があったため覚えた
0～29歳未満=10	3	0	9	1	0	0
	30.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
30～59歳未満=50	2	20	27	15	5	1
	4.0%	40.0%	54.0%	30.0%	10.0%	2.0%
60歳以上=96	3	28	56	24	7	8
	3.1%	29.2%	58.3%	25.0%	7.3%	8.3%

回答	その他	無回答	全体
0～29歳未満=10	1	0	10
	10.0%	0.0%	100.0%
30～59歳未満=50	5	0	50
	10.0%	0.0%	100.0%
60歳以上=96	6	3	96
	6.3%	3.1%	100.0%

【問15で「手話で会話する」と回答した方のみ】

問15-4　あなたは生活のなかで、手話を使いたいときに十分に使うことができていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○生活における手話の使用状況については、「十分にできている」が38.4%で最も多く、次いで「ある程度できている」が36.5%、「あまりできていない」が19.5%などとなっている。

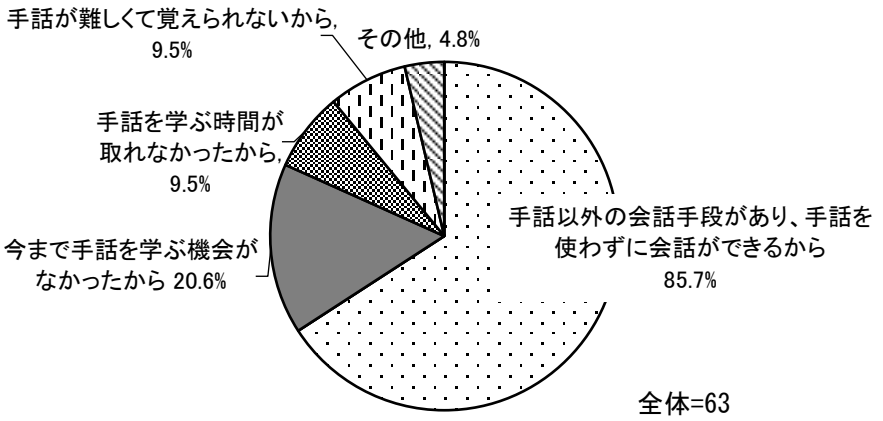


回答	十分にできている	ある程度できている	あまりできていない	できていない	無回答	全体
全体	61	58	31	3	6	159
	38.4%	36.5%	19.5%	1.9%	3.8%	100.0%

【問15で「手話で会話しない」と回答した方のみ】

問15-5　あなたが手話で会話しない理由は何ですか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。

○手話を使用しない理由については、「手話以外の会話手段があり、手話を使わずに会話できるから」が85.7%で最も多く、次いで「今まで手話を学ぶ機会がなかったから」が20.6%などとなっている。



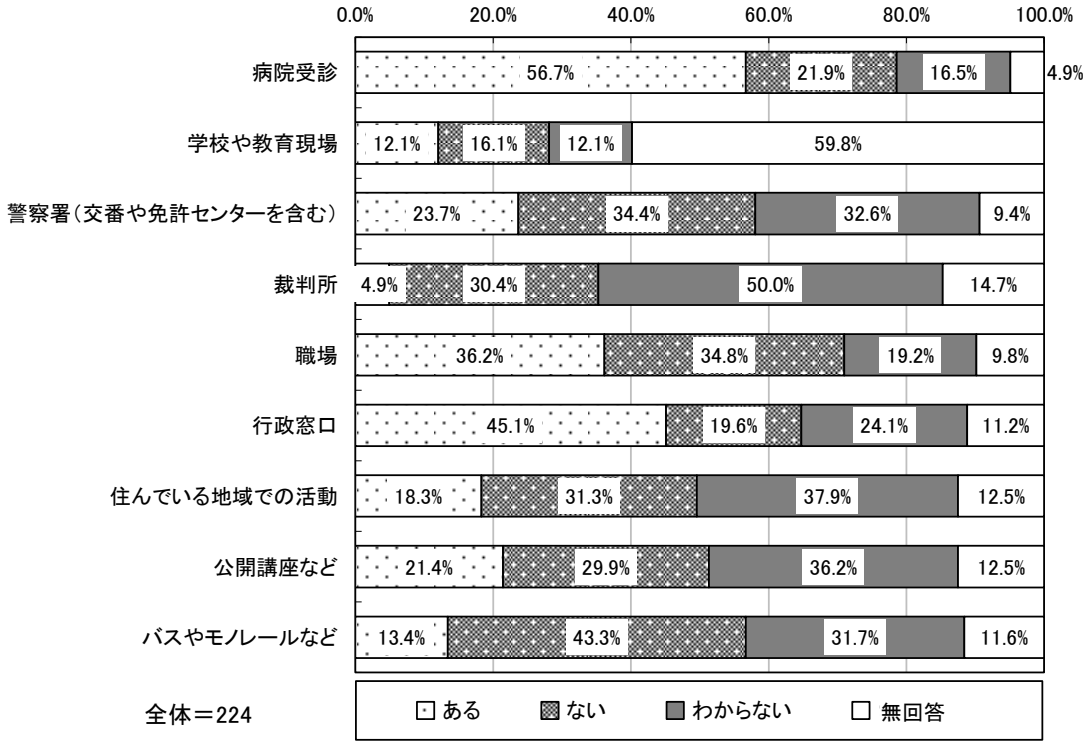
回答	手話以外の会話手段があり、手話を使わずに会話ができるから	手話を使うことに引け目を感じてきたから	今まで手話を学ぶ機会がなかったから	手話を学ぶ時間が取れなかったから	手話が難しくて覚えられないから	その他	無回答	全体
全体	54	0	13	6	6	3	0	63
	85.7%	0.0%	20.6%	9.5%	9.5%	4.8%	0.0%	100.0%

7 ろう者への配慮に関する質問

問16 あなたが下記の場面を利用する際に手話通訳や筆談などの配慮がありましたか。それぞれあてはまるもの1つに○をしてください。

○場面ごとの配慮の有無について、「ある」が多かった場所としては、「病院受診」で56.7%、「行政窓口」で45.1%、「職場」で36.2%などとなっている。

○「ない」が多かった場所としては、「バスやモノレールなど」で43.3%、「職場」で34.8%、「警察署(交番や免許センターを含む)」で34.4%などとなっている。



■【問1　回答者の属性×問16　場面ごとの配慮

問6　年齢×問16　場面ごとの配慮　　クロス集計】

〇回答者の属性とのクロス集計結果を見ると、手話を使って生活している方の「ある」が多かった場所としては、「病院受診」で73.9%となっている。

「ない」が多かった場所としては、「バスやモノレールなど」で50.7%となっている。

〇ろう学校・難聴学級等の児童・生徒の「ある」が多かった場所としては、「学校や教育現場」で36.4%となっている。

「ない」が多かった場所としては、「病院受診」で50.0%となっている。

〇ろう学校・難聴学級等の教職員の「ある」が多かった場所としては、「行政窓口」で20.5%となっている。

「ない」が多かった場所としては、「職場」で35.9%となっている。

〇年齢とのクロス集計結果を見ると、0～29歳の「ある」が多かった場所としては、「病院受診」・「学校や教育現場」でそれぞれ28.0%となっている。

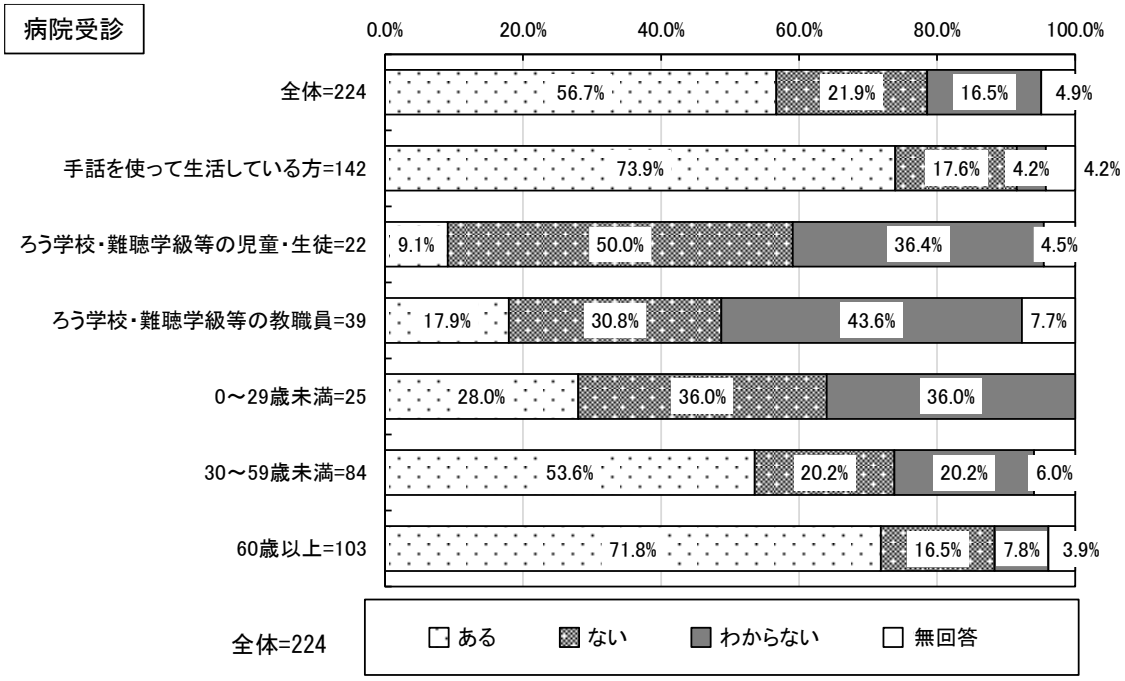
「ない」が多かった場所としては、「病院受診」で36.0%となっている。

〇30～59歳の「ある」が多かった場所としては、「病院受診」で53.6%となっている。

「ない」が多かった場所としては、「警察署（交番や免許センター含む」で38.1%となっている。

〇60歳以上の「ある」が多かった場所としては、「病院受診　」で71.8%となっている。

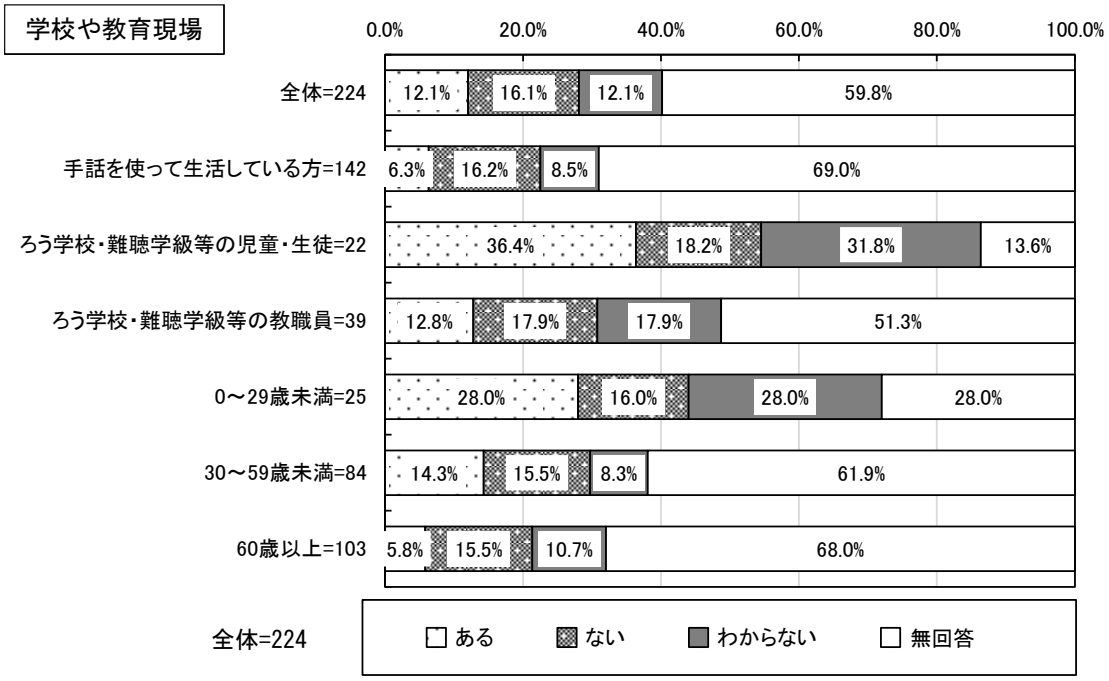
「ない」が多かった場所としては、「バスやモノレール」で52.4%となっている。



病院受診

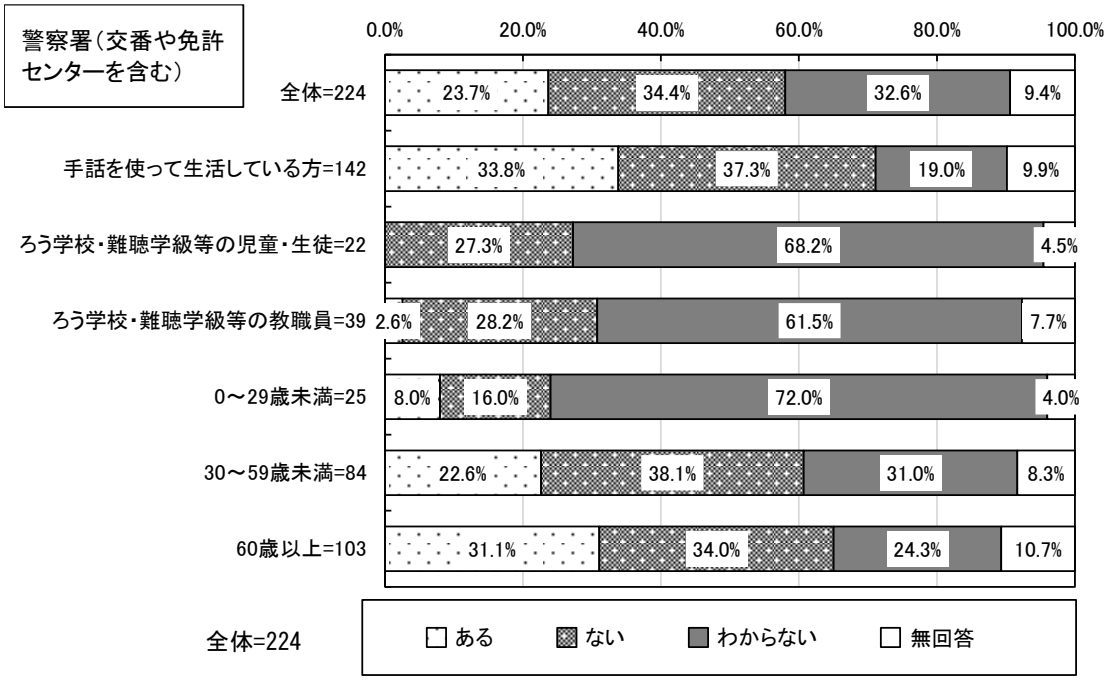
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	127	49	37	11	224
	56.7%	21.9%	16.5%	4.9%	100.0%
手話を使って生活している方=142	105	25	6	6	142
	73.9%	17.6%	4.2%	4.2%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	2	11	8	1	22
	9.1%	50.0%	36.4%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	7	12	17	3	39
	17.9%	30.8%	43.6%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	7	9	9	0	25
	28.0%	36.0%	36.0%	0.0%	100.0%
30～59歳未満=84	45	17	17	5	84
	53.6%	20.2%	20.2%	6.0%	100.0%
60歳以上=103	74	17	8	4	103
	71.8%	16.5%	7.8%	3.9%	100.0%

学校や教育現場



学校や教育現場

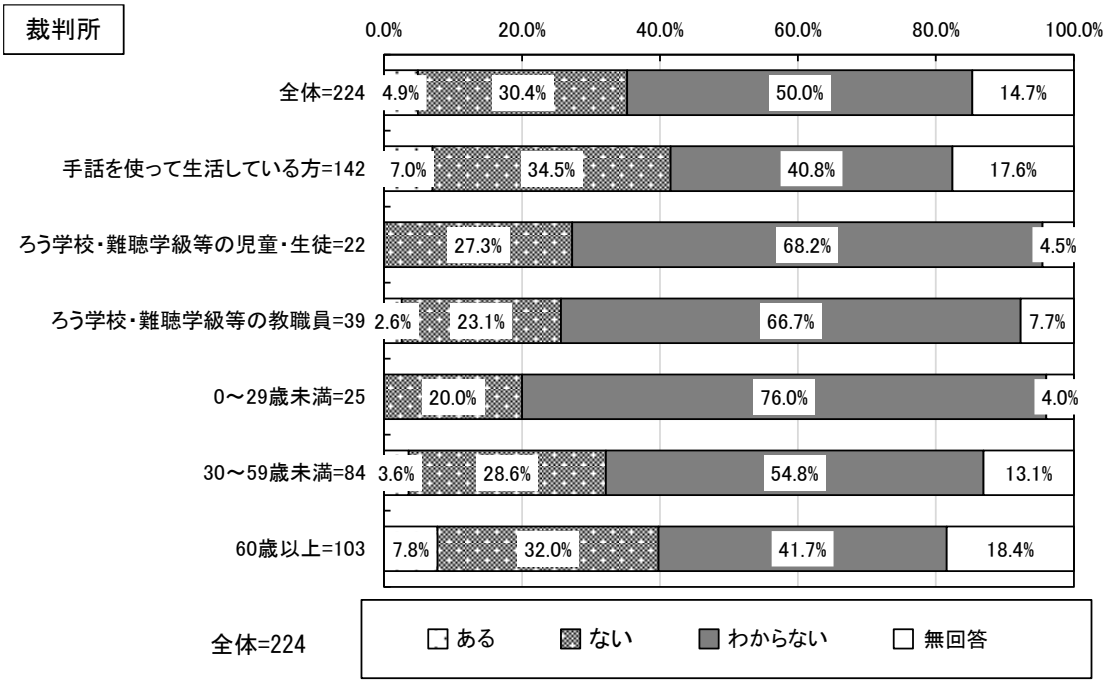
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	27	36	27	134	224
	12.1%	16.1%	12.1%	59.8%	100.0%
手話を使って生活している方=142	9	23	12	98	142
	6.3%	16.2%	8.5%	69.0%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	8	4	7	3	22
	36.4%	18.2%	31.8%	13.6%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	5	7	7	20	39
	12.8%	17.9%	17.9%	51.3%	100.0%
0～29歳未満=25	7	4	7	7	25
	28.0%	16.0%	28.0%	28.0%	100.0%
30～59歳未満=84	12	13	7	52	84
	14.3%	15.5%	8.3%	61.9%	100.0%
60歳以上=103	6	16	11	70	103
	5.8%	15.5%	10.7%	68.0%	100.0%



警察署（交番や免許センターを含む）

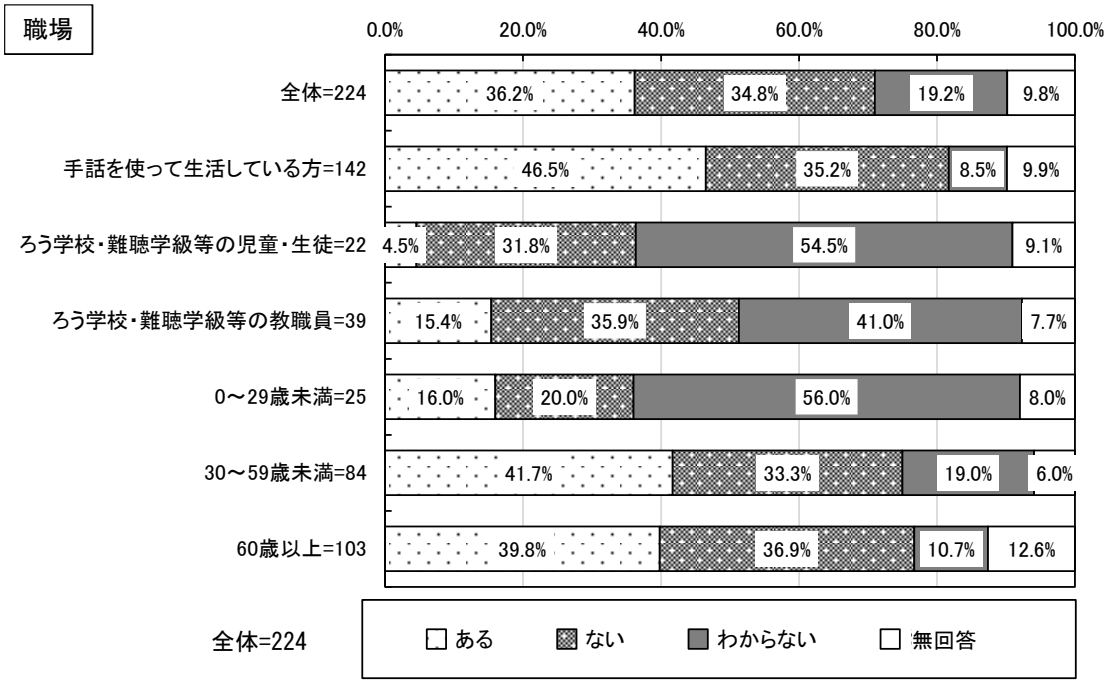
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	53	77	73	21	224
	23.7%	34.4%	32.6%	9.4%	100.0%
手話を使って生活している方=142	48	53	27	14	142
	33.8%	37.3%	19.0%	9.9%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	0	6	15	1	22
	0.0%	27.3%	68.2%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	1	11	24	3	39
	2.6%	28.2%	61.5%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	2	4	18	1	25
	8.0%	16.0%	72.0%	4.0%	100.0%
30～59歳未満=84	19	32	26	7	84
	22.6%	38.1%	31.0%	8.3%	100.0%
60歳以上=103	32	35	25	11	103
	31.1%	34.0%	24.3%	10.7%	100.0%

裁判所



裁判所

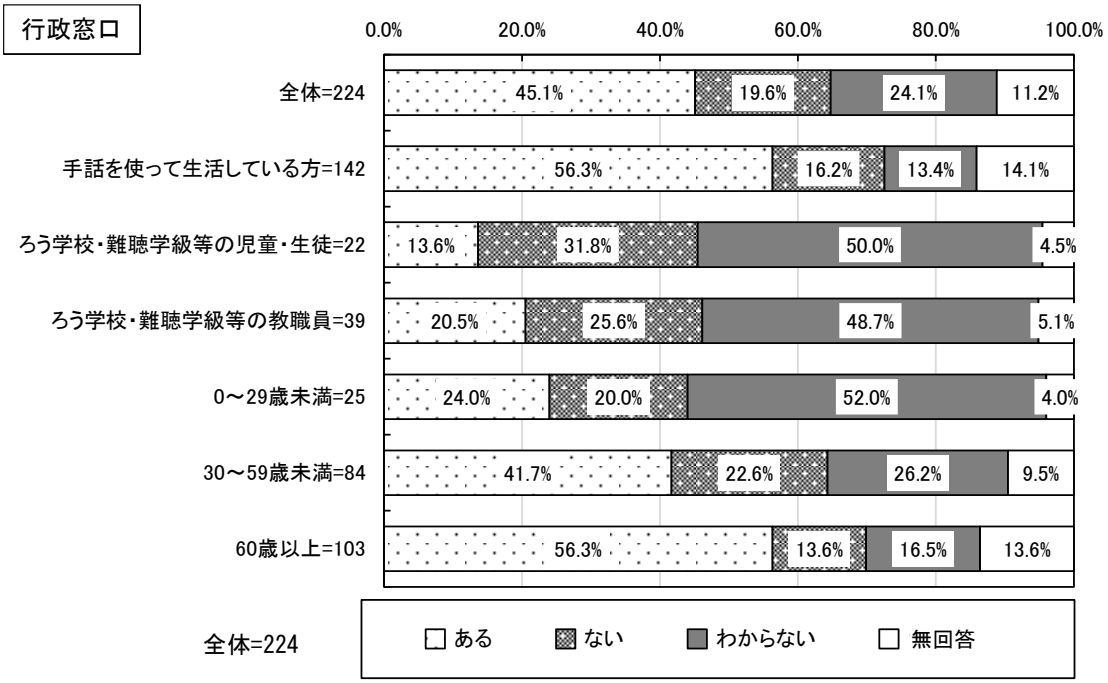
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	11	68	112	33	224
	4.9%	30.4%	50.0%	14.7%	100.0%
手話を使って生活している方=142	10	49	58	25	142
	7.0%	34.5%	40.8%	17.6%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	0	6	15	1	22
	0.0%	27.3%	68.2%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	1	9	26	3	39
	2.6%	23.1%	66.7%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	0	5	19	1	25
	0.0%	20.0%	76.0%	4.0%	100.0%
30～59歳未満=84	3	24	46	11	84
	3.6%	28.6%	54.8%	13.1%	100.0%
60歳以上=103	8	33	43	19	103
	7.8%	32.0%	41.7%	18.4%	100.0%



職場

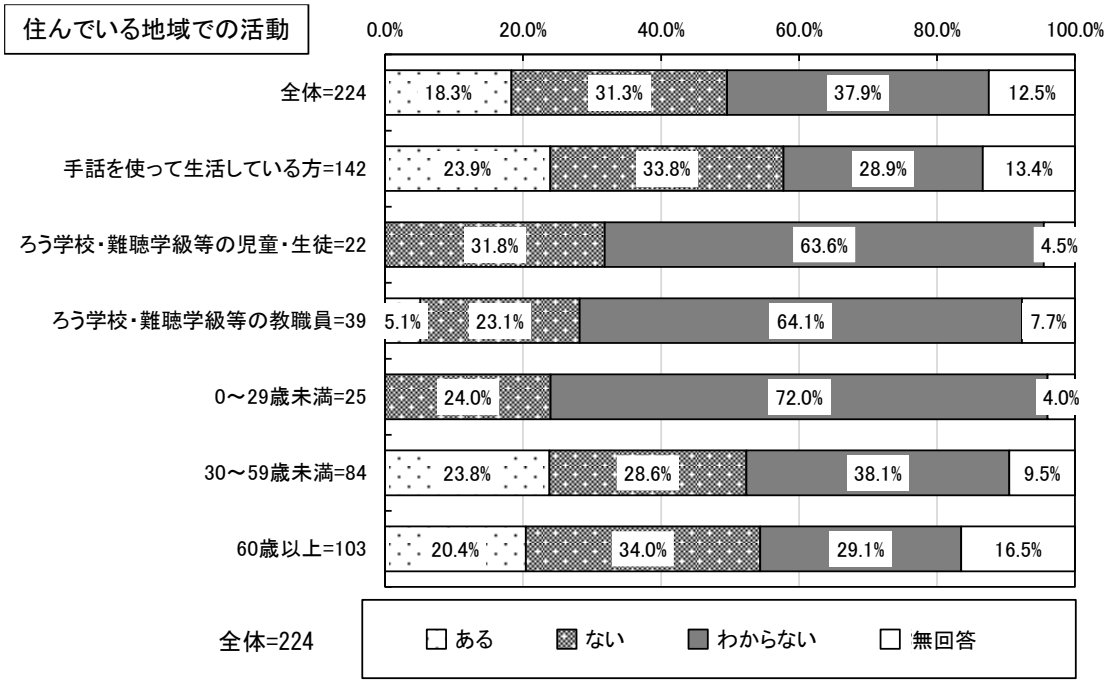
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	81	78	43	22	224
	36.2%	34.8%	19.2%	9.8%	100.0%
手話を使って生活している方=142	66	50	12	14	142
	46.5%	35.2%	8.5%	9.9%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	1	7	12	2	22
	4.5%	31.8%	54.5%	9.1%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	6	14	16	3	39
	15.4%	35.9%	41.0%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	4	5	14	2	25
	16.0%	20.0%	56.0%	8.0%	100.0%
30～59歳未満=84	35	28	16	5	84
	41.7%	33.3%	19.0%	6.0%	100.0%
60歳以上=103	41	38	11	13	103
	39.8%	36.9%	10.7%	12.6%	100.0%

行政窓口



行政窓口

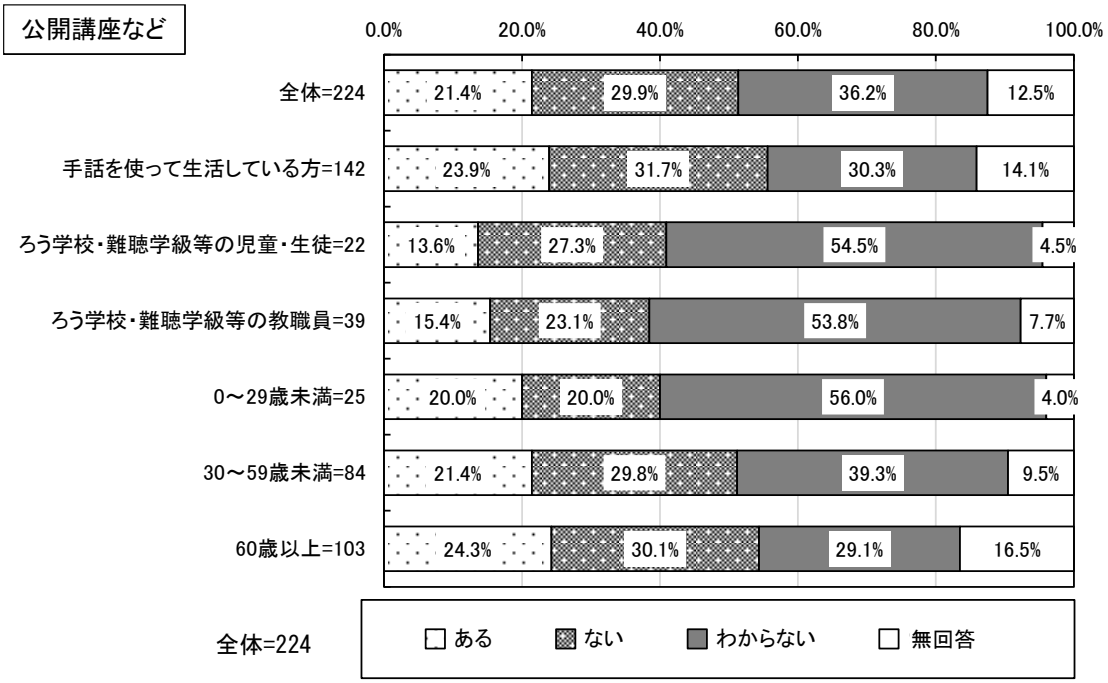
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	101	44	54	25	224
	45.1%	19.6%	24.1%	11.2%	100.0%
手話を使って生活している方=142	80	23	19	20	142
	56.3%	16.2%	13.4%	14.1%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	3	7	11	1	22
	13.6%	31.8%	50.0%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	8	10	19	2	39
	20.5%	25.6%	48.7%	5.1%	100.0%
0～29歳未満=25	6	5	13	1	25
	24.0%	20.0%	52.0%	4.0%	100.0%
30～59歳未満=84	35	19	22	8	84
	41.7%	22.6%	26.2%	9.5%	100.0%
60歳以上=103	58	14	17	14	103
	56.3%	13.6%	16.5%	13.6%	100.0%



住んでいる地域での活動

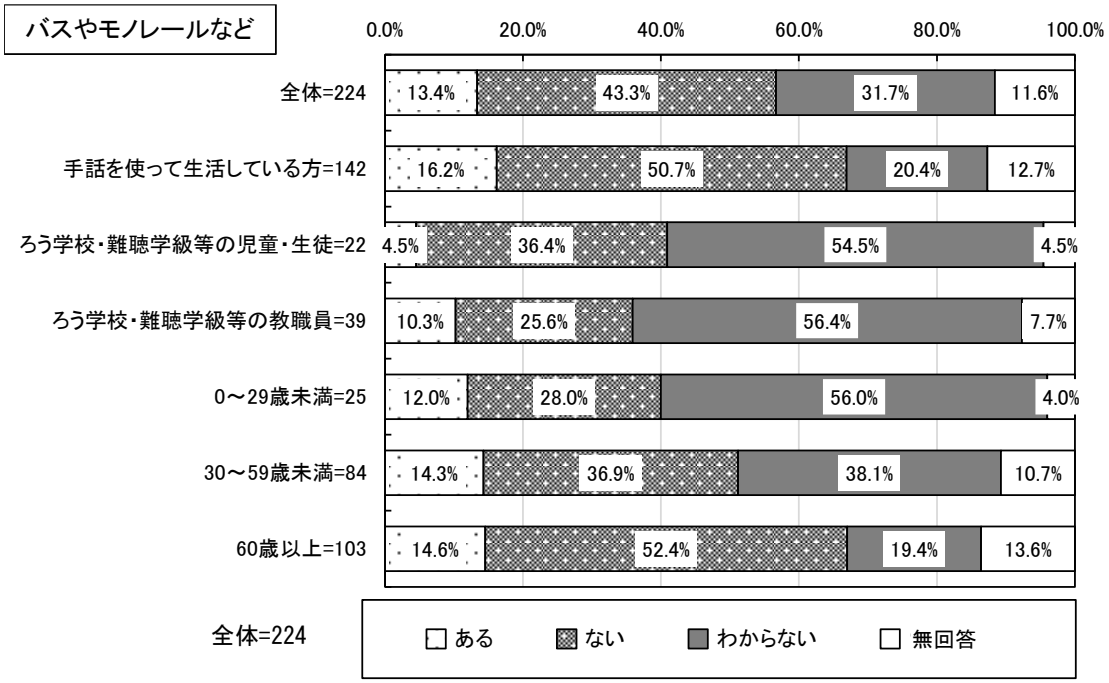
回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	41	70	85	28	224
	18.3%	31.3%	37.9%	12.5%	100.0%
手話を使って生活している方=142	34	48	41	19	142
	23.9%	33.8%	28.9%	13.4%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	0	7	14	1	22
	0.0%	31.8%	63.6%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	2	9	25	3	39
	5.1%	23.1%	64.1%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	0	6	18	1	25
	0.0%	24.0%	72.0%	4.0%	100.0%
30～59歳未満=84	20	24	32	8	84
	23.8%	28.6%	38.1%	9.5%	100.0%
60歳以上=103	21	35	30	17	103
	20.4%	34.0%	29.1%	16.5%	100.0%

公開講座など



公開講座など

回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	48	67	81	28	224
	21.4%	29.9%	36.2%	12.5%	100.0%
手話を使って生活している方=142	34	45	43	20	142
	23.9%	31.7%	30.3%	14.1%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	3	6	12	1	22
	13.6%	27.3%	54.5%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	6	9	21	3	39
	15.4%	23.1%	53.8%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	5	5	14	1	25
	20.0%	20.0%	56.0%	4.0%	100.0%
30～59歳未満=84	18	25	33	8	84
	21.4%	29.8%	39.3%	9.5%	100.0%
60歳以上=103	25	31	30	17	103
	24.3%	30.1%	29.1%	16.5%	100.0%



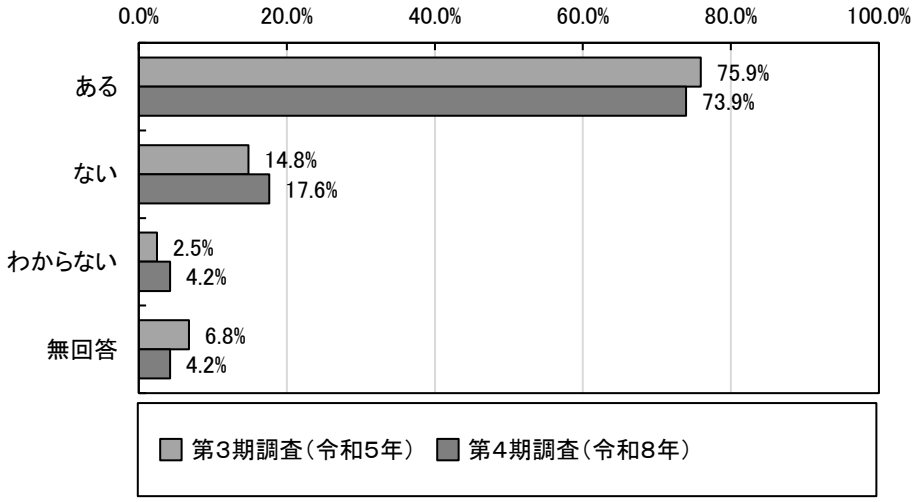
バスやモノレールなど

回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
全体=224	30	97	71	26	224
	13.4%	43.3%	31.7%	11.6%	100.0%
手話を使って生活している方=142	23	72	29	18	142
	16.2%	50.7%	20.4%	12.7%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の児童・生徒=22	1	8	12	1	22
	4.5%	36.4%	54.5%	4.5%	100.0%
ろう学校・難聴学級等の教職員=39	4	10	22	3	39
	10.3%	25.6%	56.4%	7.7%	100.0%
0～29歳未満=25	3	7	14	1	25
	12.0%	28.0%	56.0%	4.0%	100.0%
30～59歳未満=84	12	31	32	9	84
	14.3%	36.9%	38.1%	10.7%	100.0%
60歳以上=103	15	54	20	14	103
	14.6%	52.4%	19.4%	13.6%	100.0%

■【過去調査との比較】 ※第4期調査は問1にて「手話を使って生活している方」の回答結果を反映

○過去調査との比較を見ると、「ある」が上昇している場面としては、「裁判所」、「行政窓口」、「公開講座など」、「バスやモノレールなど」となっている。

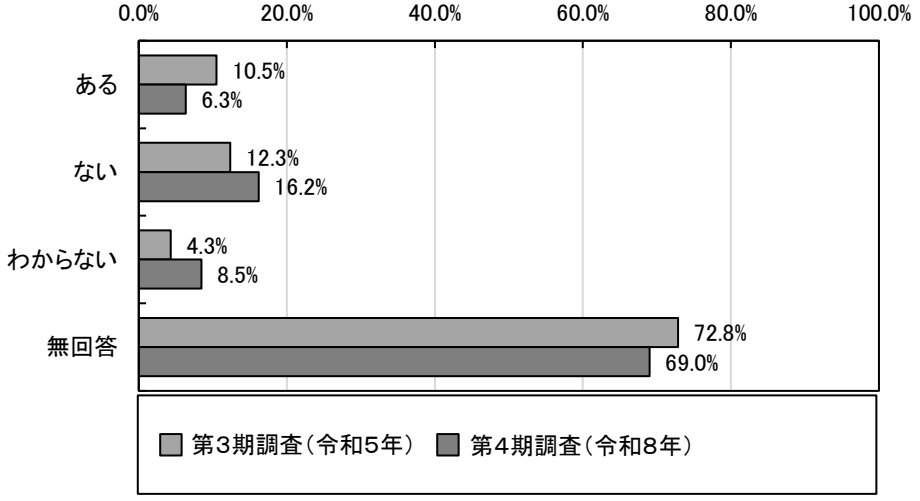
病院受診



病院受診

回答	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	123	24	4	11	162
	75.9%	14.8%	2.5%	6.8%	100.0%
第４期調査（令和８年）	105	25	6	6	142
	73.9%	17.6%	4.2%	4.2%	100.0%

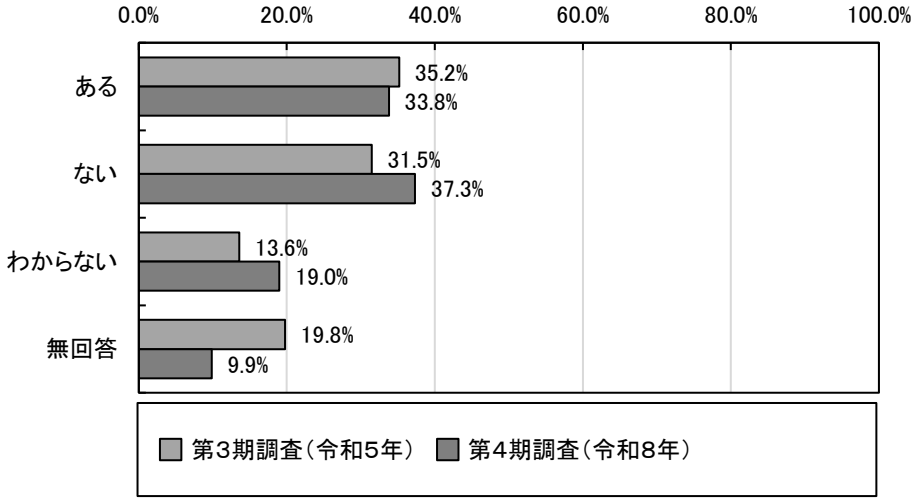
学校や教育現場



学校や教育現場

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	17	20	7	118	162
	10.5%	12.3%	4.3%	72.8%	100.0%
第４期調査（令和８年）	9	23	12	98	142
	6.3%	16.2%	8.5%	69.0%	100.0%

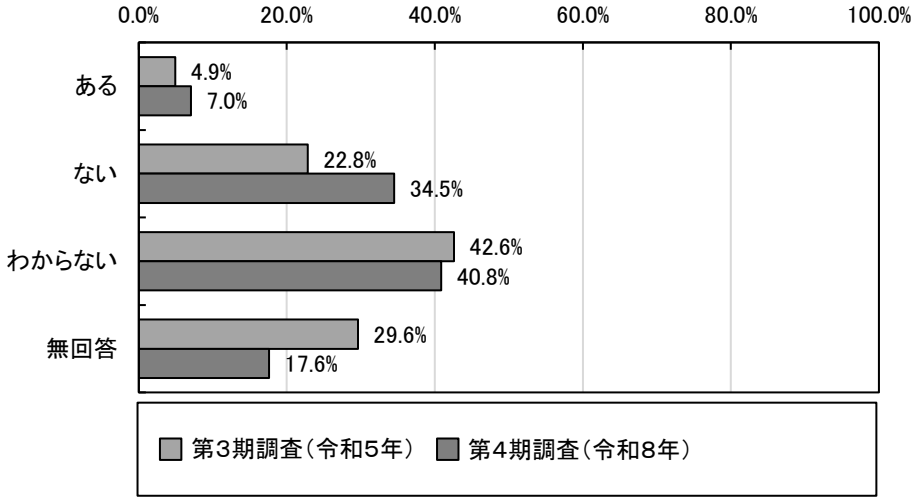
警察署（交番や免許センターを含む）



警察署（交番や免許センターを含む）

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	57	51	22	32	162
	35.2%	31.5%	13.6%	19.8%	100.0%
第４期調査（令和８年）	48	53	27	14	142
	33.8%	37.3%	19.0%	9.9%	100.0%

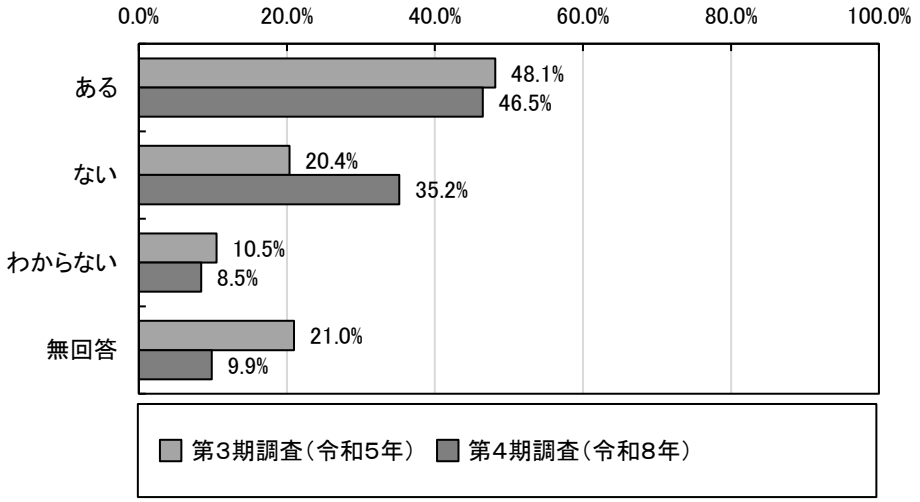
裁判所



裁判所

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	8	37	69	48	162
	4.9%	22.8%	42.6%	29.6%	100.0%
第４期調査（令和８年）	10	49	58	25	142
	7.0%	34.5%	40.8%	17.6%	100.0%

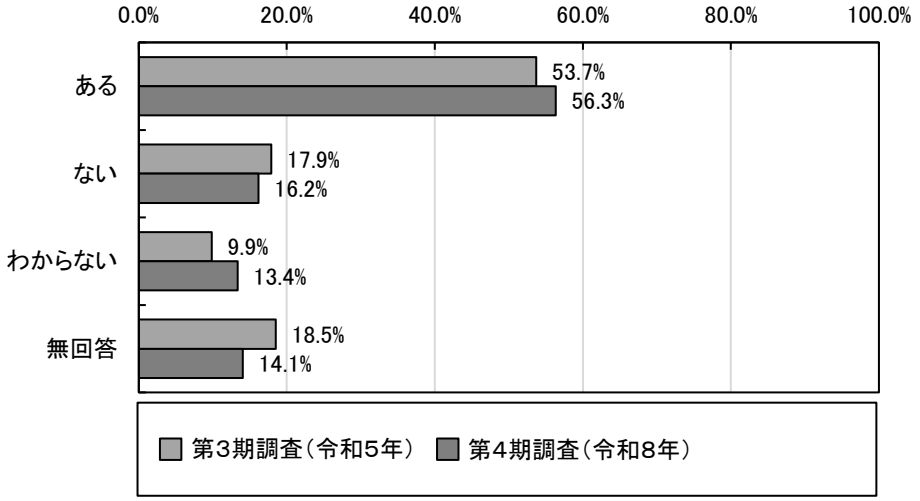
職場



職場

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	78	33	17	34	162
	48.1%	20.4%	10.5%	21.0%	100.0%
第４期調査（令和８年）	66	50	12	14	142
	46.5%	35.2%	8.5%	9.9%	100.0%

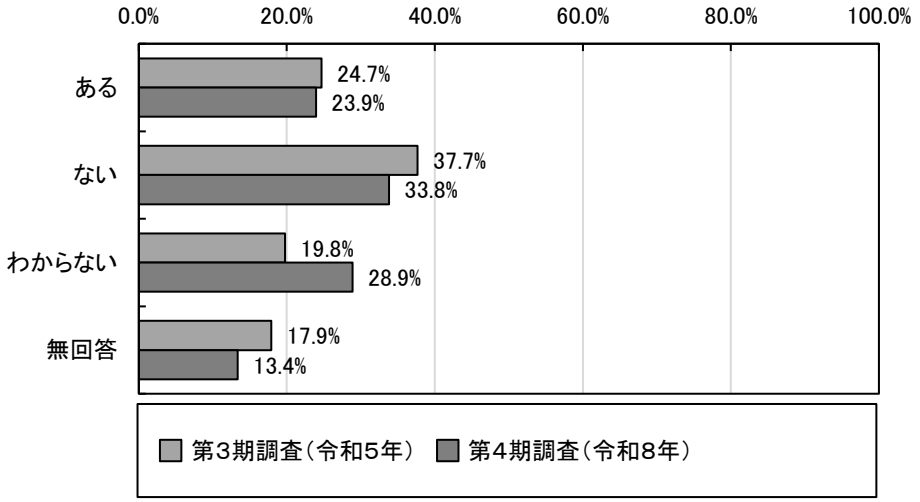
行政窓口



行政窓口

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	87	29	16	30	162
	53.7%	17.9%	9.9%	18.5%	100.0%
第４期調査（令和８年）	80	23	19	20	142
	56.3%	16.2%	13.4%	14.1%	100.0%

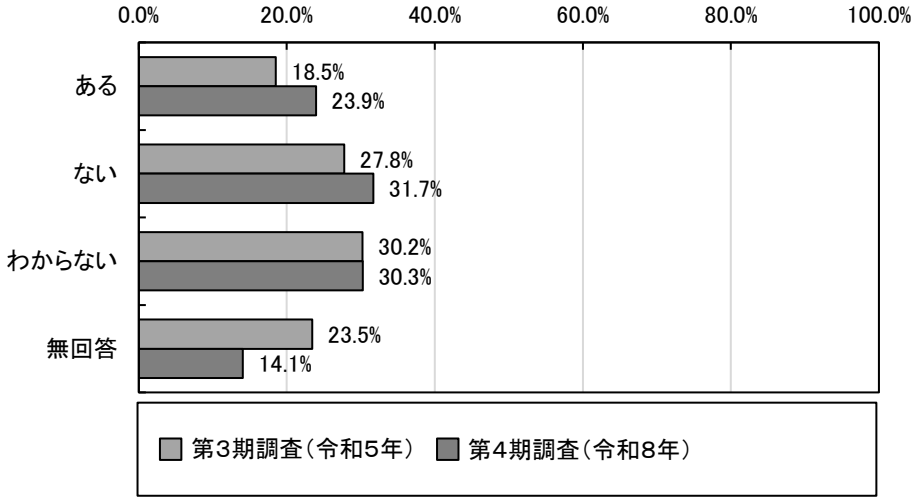
住んでいる地域での活動



住んでいる地域での活動

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	40	61	32	29	162
	24.7%	37.7%	19.8%	17.9%	100.0%
第４期調査（令和８年）	34	48	41	19	142
	23.9%	33.8%	28.9%	13.4%	100.0%

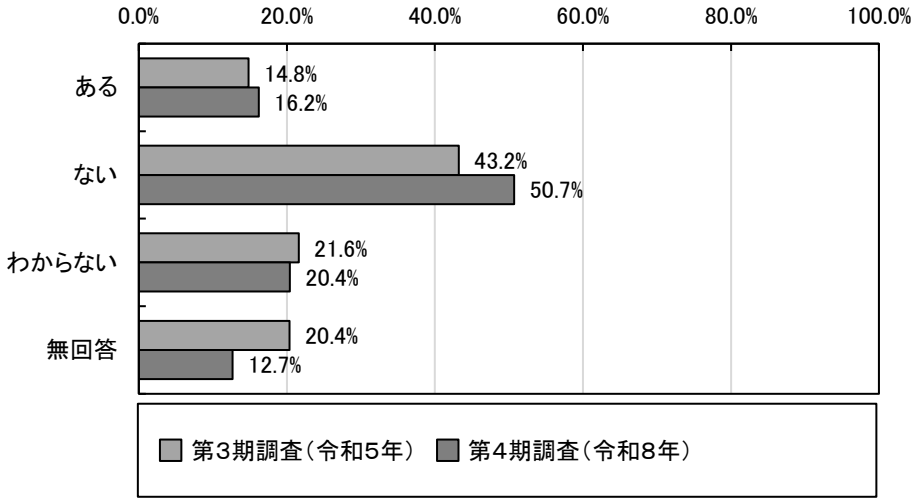
公開講座など



公開講座など

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	30	45	49	38	162
	18.5%	27.8%	30.2%	23.5%	100.0%
第４期調査（令和８年）	34	45	43	20	142
	23.9%	31.7%	30.3%	14.1%	100.0%

バスやモノレールなど



バスやモノレールなど

全体	ある	ない	わからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	24	70	35	33	162
	14.8%	43.2%	21.6%	20.4%	100.0%
第４期調査（令和８年）	23	72	29	18	142
	16.2%	50.7%	20.4%	12.7%	100.0%

問17-1 【問16で「ある」と答えた方】ろう者に対する配慮の具体例がありましたら、ご自由にお書きください。

No.	具体例
1	お体のとてもはずかしいことは1人に病院の筆談を使ってからありました。
2	文字で掲示、内容を筆談しながら進める。
3	難聴児が交流学級で他の児童と学習する際には、筆談をしながら困っているときに支援している。
4	口を分かりやすく開ける。筆談。
5	ありがとうと思う。
6	職場ではほとんど高齢者で手話覚えられない。多忙もあるけど、口話で対処している。（用件のみ）
7	病院通院の時、手話通訳してもらっている。（役所の方）
8	講演会の時に手話通訳があった。
9	この先小学校入学にいろいろ準備をしてもらっている。
10	筆談
11	あまわりパークで行われたライブパフォーマンスに手話通訳がついた日があった。
12	手話と筆談（学校の先生が書いて、本人に確認する）
13	筆談、空書、スマホ・タブレットによる音声文字起こし
14	手話通訳者の設置、それができなければ筆談で対応
15	病院職員が知っていた
16	紙に書いて分かりやすいように筆談をしている方を見たことが何回もあります。
17	手話通訳者
18	筆談
19	スマホに向かってゆっくり話すなど
20	視覚情報が得やすい環境がある。相手側がろう者の対応に慣れていて、状況に合った対応ができている。
21	役場に手話通訳を依頼し、同行してもらっている。職場（作業所）はろう者手話で会話できる人がたくさんいる。
22	分からないことを筆談で教えてくれた。
23	役所に手話通訳者が設置されている。手話通訳者派遣を利用している。
24	行政窓口は手話通訳があるので助かります。
25	職場で作業内容を詳しく説明
26	職場で作業内容を詳しく説明
27	「聞こえないのでこういう配慮があると助かります」と直接言うことが多い
28	聞こえないと伝えると筆談でやってくれる
29	地域活動の時は、手話のできる方がボランティアで地域住民とのコミュニケーションを取ってくれた。
30	手話通訳は協力をしたい
31	免許更新では筆談、診察ではPCを使った筆談（説明の時）、事故に合ったときは救急隊員が手話ができ、警察官はスマホ、病院では筆談でやりとりしてくれました。
32	手話通訳士がいてくれる
33	・手話通訳、必要です。 ・手話通訳の人はたくさん必要です
34	病院受診の時は手話通訳派遣を利用
35	ほとんど筆談でのやりとり

36	通訳派遣依頼、通訳サービス、チラシに「手話通訳」付き
37	主に口話（補聴器）だが、うまく聞き取れない（口話が読み取れない）時は、メモ帳などに書いてくれる（筆談）
38	職場で字幕アプリを準備してくれた。病院で、直接見えるように呼び出しをしてくれる。ドクターが筆談してくれる。設置手話通訳がある。
39	手話の同時通訳の人がいた
40	特別支援学校の先生が手話を使って授業をしてくれる
41	病院は筆談、コロナが落ち着いてきたのかマスクを外して話してもらう機会が増えた。またメールで対応してくれる病院もあるので大変助かっている
42	筆談用のメモ用紙が準備されている
43	発語でのコミュニケーションのサポートとしてハンドサイン等を活用している。
44	手話通訳で使用してます。
45	職員が手話で会話しているところを見たことがある
46	本庁研修時でパワーポイントを使って字幕表示を依頼した
47	同時通訳をしていた
48	筆談、字幕、電光掲示板など視覚的な情報などがある。
49	手話通訳派遣依頼が出来、行政窓口では手話通訳者が配置されてるなどの配慮はある。
50	筆談のメモ
51	手話通訳者がいる
52	公開講座に手話をしていてわかりやすかった。
53	手話通訳が配置されていた
54	窓口で手話による説明や手続きに対応していた。
55	職場で筆談した
56	筆談してくれる
57	筆談する人。スマホ使った人。少し手話できる人。人々よっていた。
58	理解心がある人は身振りしながら対応してくれる
59	仕事の面会、面談など手話通訳必要です。
60	情報保証の為
61	県から手話通訳派遣の予算がある。
62	かなり助かる
63	設置手話通訳者がいる

問17-2 【問16で「ない」と答えた方】ろう者に対する配慮がなかった場面の具体例がありましたら、ご自由にお書きください。

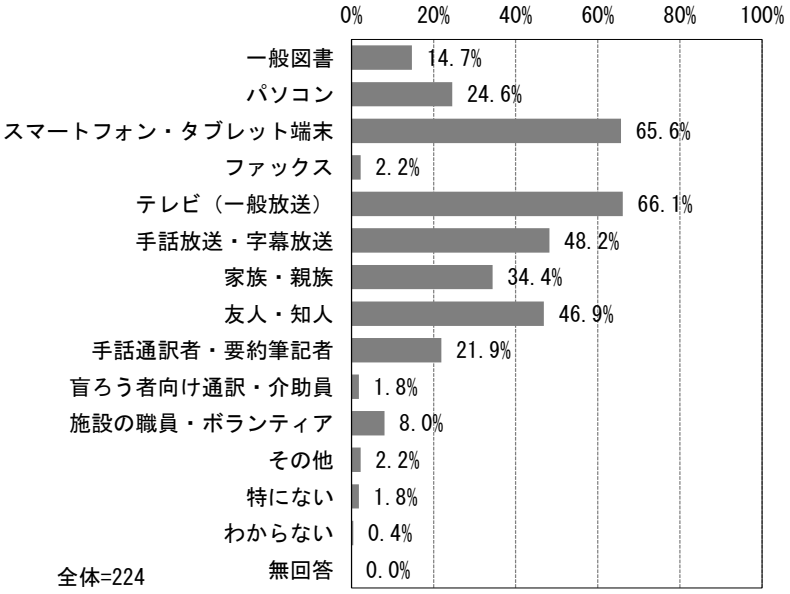
No.	具体例
1	不便など（etc.）
2	同上
3	手話を使って話をしている場面をあまり見たことがないです。
4	聞こえないことに関心なし。無知で理解度が低い。
5	後で全部共有する、しない。マスクで話ができないなど。
6	相手側がろう者に対してどういう対応をしたら良いか分かっていない。配慮不足というより経験不足。
7	自分からメモを書き、見せてお願いしてます。
8	映画に字幕が無い
9	映画に字幕が無い
10	口話で話せるとすぐ思ったら、そのままの対応でされることがほとんど（マスク付きで）困る
11	「聞こえないから書いて」など伝えてもなかなか対応してくれないことがある
12	時間の変更などのアナウンス（内地の場合）
13	言葉は耳が難しくて手話通訳を協力したい
14	職場（過去ですが）では、手話通訳を希望しても理解がなかったり、「予算を圧迫する」などの理由でさじを投げられたことがあります。また、わざわざ私の目の前にやってきて「特別扱いしないからね！」と言われた事も。
15	警察署（免許センター）手話通訳は無いので、説明がうまくできません。
16	経験がありません
17	環境整備されていない
18	バスやモノレールにも通訳をつけてほしい
19	職場コミュニケーションが取れず困ることが多い
20	職場、コミュニケーションが取れず、困ることが多い
21	通訳派遣依頼してなかった
22	全てにおいて基本、手話通訳がない。何かするには、自分で何とかしないといけない。お店の予約が電話しかないので、予約するためにお店まで行かないといけない。職場で情報がないからみんなについていけない時がある。室内放送や、防災無線が聞こえないので情報が取れない。講演、講座、舞台等に手話通訳がない。
23	特に感じない
24	ろう学校での授業参観や研修会での手話通訳。
25	機会がない
26	口話でやりとりするので理解していると思われている
27	機会がほとんどありません
28	手話できない代わりに筆談お願いしますと依頼しても、断られるケースもしばしばあり。
29	補聴器をしていても、基本的には配慮はないです。
30	身振りや筆談や携帯で会話の通訳などです。
31	予算がないため手話通訳派遣が厳しい
32	わからない
33	筆談、字幕、視覚的な情報がない。
34	公開講座は申込時に手話通訳がついてないことが多く受講を諦めることがほとんど。
35	手話がわからない。自分が難聴者だと気づいてもらえない。

36	講演会などで話が理解できなくなる
37	理解してくれます。ドクターに配意ある。
38	口話されても早口の人が多い、嫌そうな顔される。
39	ホーム等で字幕付きの運行情報等を見ているから手話通訳不要。出来ればディスプレイに手話通訳付き。
40	一般向けの講座や職場の自主研修、教職員の雑談等で、配慮がない。
41	自分の担当する業務に関わる会議の時に呼ばれない
42	指さしでほとんど必要な情報が伝わるので使わなかったです
43	学校に手話を使う人がほとんどいない、主に口語
44	手話通訳が少なく、通じない。

8 情報の入手の状況に関する質問

問18 あなたはご自分の関心のあるニュースなどの情報をどこから得ますか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。

○情報入手手段としては、「テレビ(一般放送)」が66.1%で最も多く、次いで「スマートフォン・タブレット端末」が65.6%、「手話放送・字幕放送」が48.2%などとなっている。

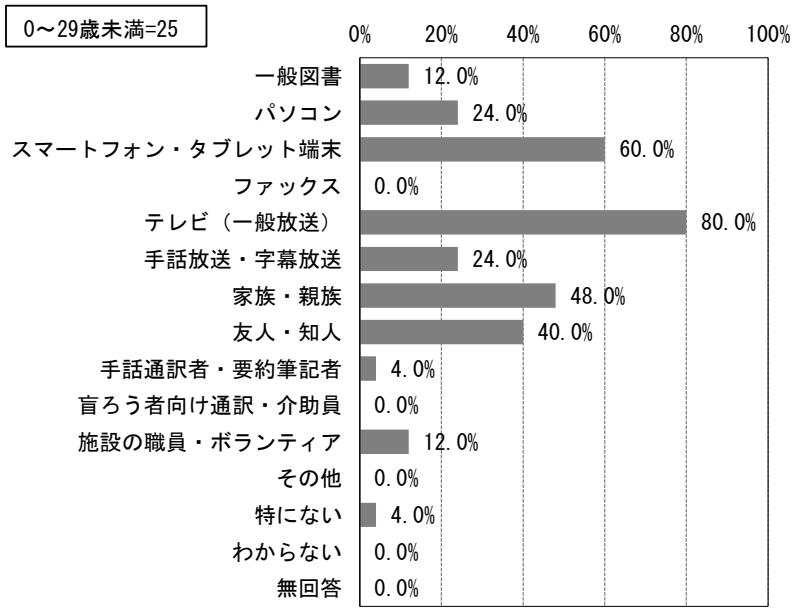


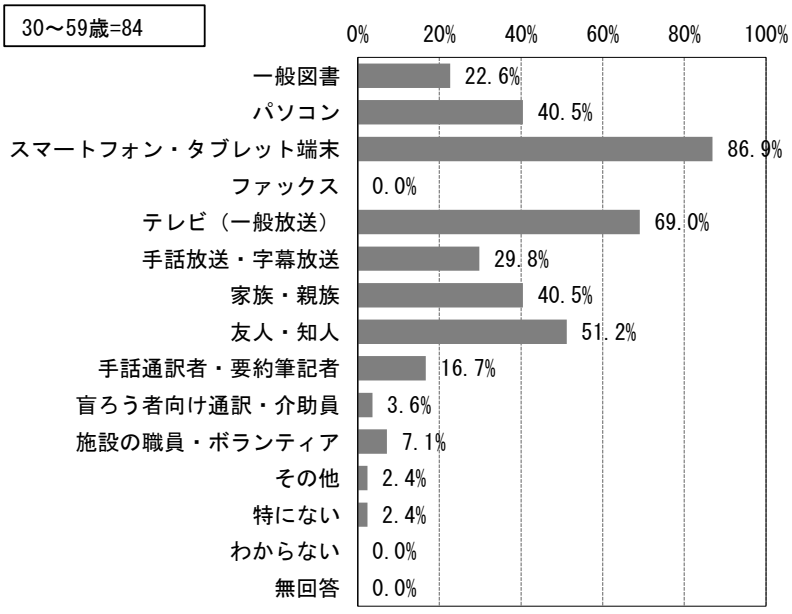
回答	一般図書	パソコン	スマートフォン・タブレット端末	ファックス	テレビ（一般放送）	手話放送・字幕放送	家族・親族	友人・知人
全体=224	33	55	147	5	148	108	77	105
	14.7%	24.6%	65.6%	2.2%	66.1%	48.2%	34.4%	46.9%

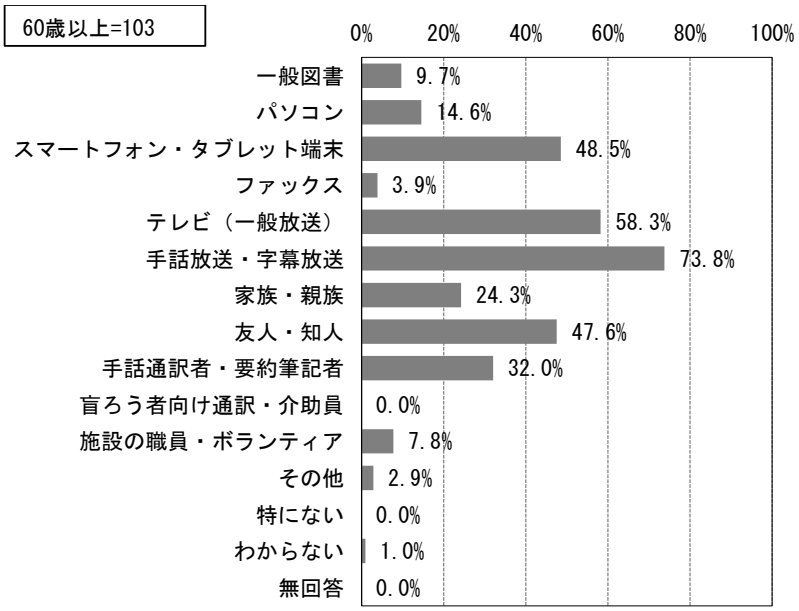
回答	手話通訳者・要約筆記者	盲ろう者向け通訳・介助員	施設の職員・ボランティア	その他	特にない	わからない	無回答	全体
全体=224	49	4	18	5	4	1	0	224
	21.9%	1.8%	8.0%	2.2%	1.8%	0.4%	0.0%	100.0%

■【問6　年齢×問18　情報入手手段　　クロス集計】

○年齢とのクロス集計結果を見ると、0～29歳は「テレビ(一般放送)」が80.0%、30～59歳は「スマートフォン・タブレット端末」が86.9%、60歳以上は「手話放送・字幕放送」が73.8%で最も多い結果となっている。

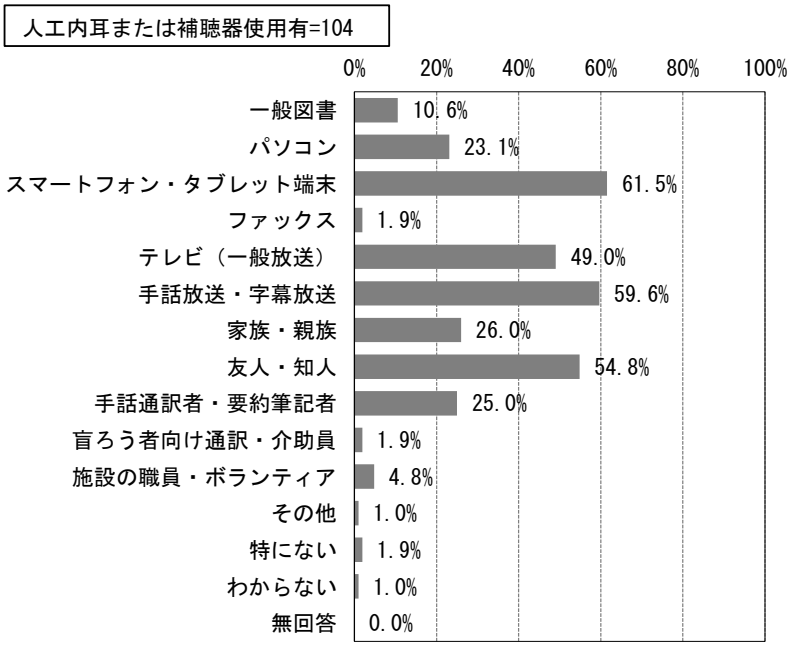


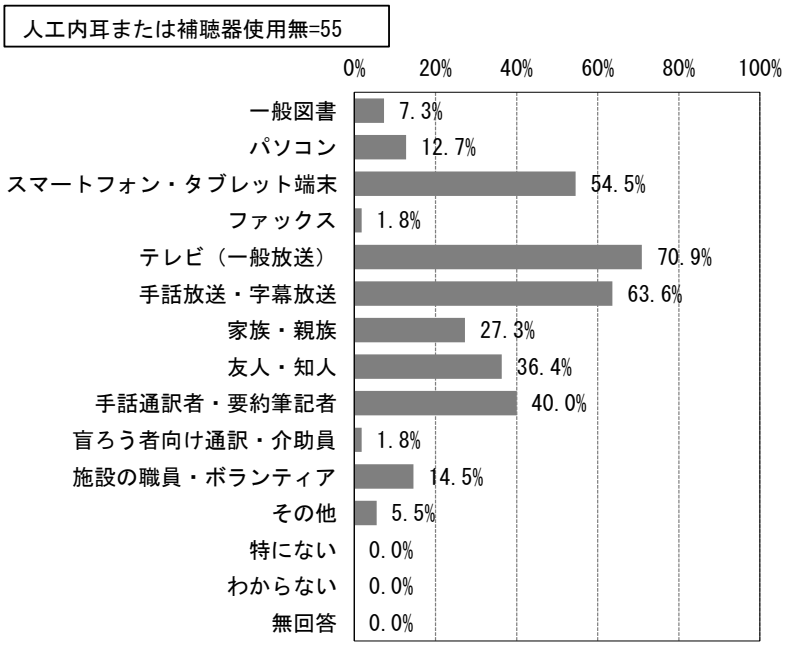




【問12　補聴器または人工内耳の有無×問18　情報入手手段】

○人工内耳または補聴器の使用有無とのクロス集計結果を見ると、人工内耳または補聴器の使用有は「スマートフォン・タブレット端末」が61.5%、人工内耳または補聴器の使用無は「テレビ（一般放送）」が70.9%で最も多い結果となっている。



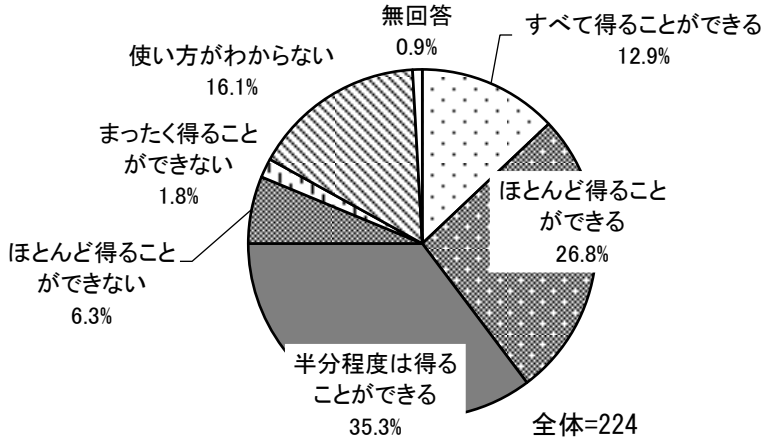


回答	一般図書	パソコン	スマートフォン・タブレット端末	ファックス	テレビ（一般放送）	手話放送・字幕放送	家族・親族	友人・知人
0～29歳未満=25	3	6	15	0	20	6	12	10
	12.0%	24.0%	60.0%	0.0%	80.0%	24.0%	48.0%	40.0%
30～59歳=84	19	34	73	0	58	25	34	43
	22.6%	40.5%	86.9%	0.0%	69.0%	29.8%	40.5%	51.2%
60歳以上=103	10	15	50	4	60	76	25	49
	9.7%	14.6%	48.5%	3.9%	58.3%	73.8%	24.3%	47.6%
人工内耳または補聴器使用有=104	11	24	64	2	51	62	27	57
	10.6%	23.1%	61.5%	1.9%	49.0%	59.6%	26.0%	54.8%
人工内耳または補聴器使用無=55	4	7	30	1	39	35	15	20
	7.3%	12.7%	54.5%	1.8%	70.9%	63.6%	27.3%	36.4%

回答	手話通訳者・要約筆記者	盲ろう者向け通訳・介助員	施設の職員・ボランティア	その他	特にない	わからない	無回答	全体
0～29歳未満=25	1	0	3	0	1	0	0	25
	4.0%	0.0%	12.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30～59歳=84	14	3	6	2	2	0	0	84
	16.7%	3.6%	7.1%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳以上=103	33	0	8	3	0	1	0	103
	32.0%	0.0%	7.8%	2.9%	0.0%	1.0%	0.0%	100.0%
人工内耳または補聴器使用有=104	26	2	5	1	2	1	0	104
	25.0%	1.9%	4.8%	1.0%	1.9%	1.0%	0.0%	100.0%
人工内耳または補聴器使用無=55	22	1	8	3	0	0	0	55
	40.0%	1.8%	14.5%	5.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問19　スマートフォンやパソコンなどのICT技術を活用してどの程度情報を入手できていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

○ICT技術の活用状況について、「半分程度は得ることができる」が35.3%で最も多く、次いで「ほとんど得ることができる」が26.8%、「使い方がわからない」が16.1%などとなっている。



回答	すべて得ることができる	ほとんど得ることができる	半分程度は得ることができる	ほとんど得ることができない	まったく得ることができない	使い方がわからない	無回答	全体
全体=224	29	60	79	14	4	36	2	224
	12.9%	26.8%	35.3%	6.3%	1.8%	16.1%	0.9%	100.0%

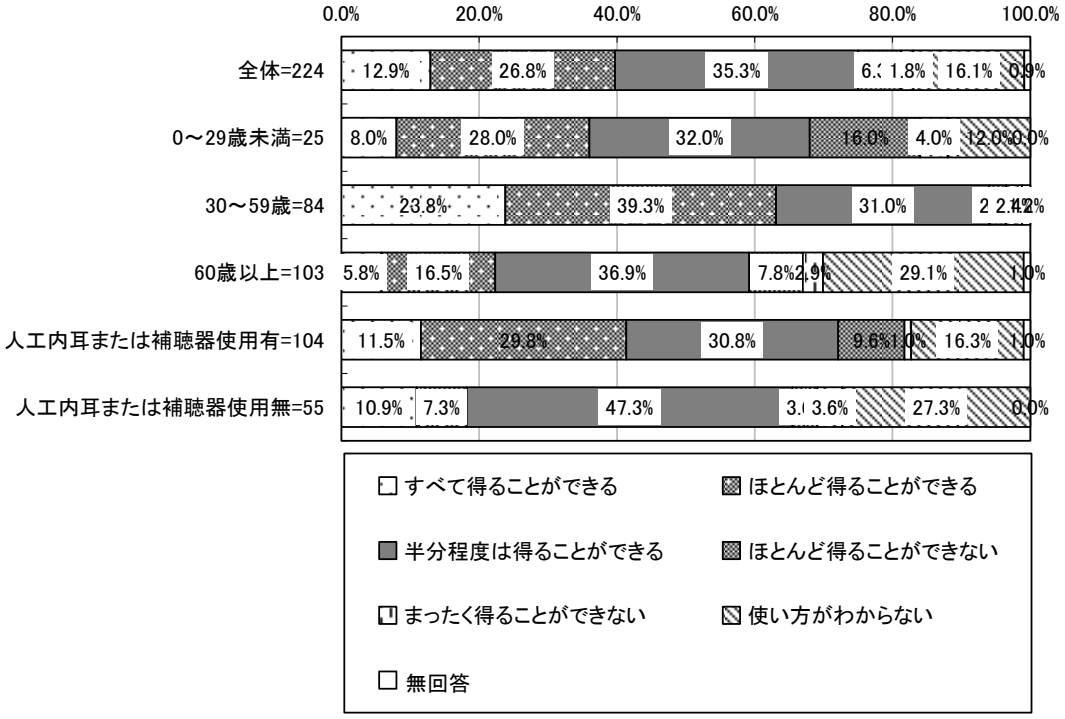
75.0%　　24.2%

■【問6　年齢××問19　ICT活用状況

問12　補聴器または人工内耳の有無×問19　ICT活用状況　　クロス集計】

○年齢とのクロス集計結果を見ると、0～29歳は「半分程度は得ることができる」が32.0%、30～59歳は「ほとんど得ることができる」が39.3%、60歳以上は「半分程度は得ることができる」が36.9%で最も多い結果となっている。

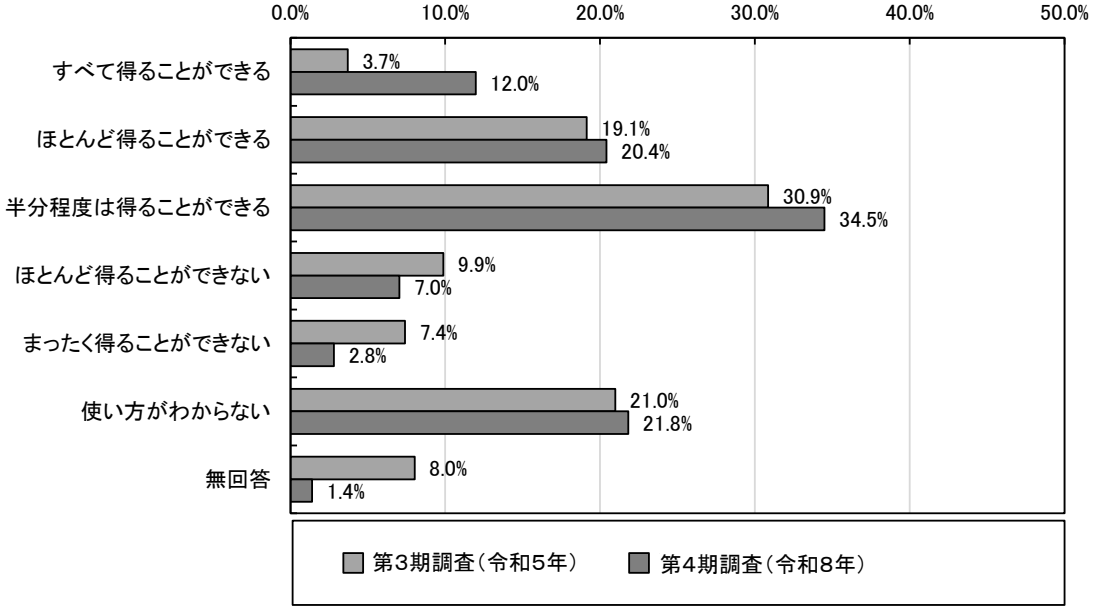
○補聴器または人工内耳の有無とのクロス集計結果を見ると、人工内耳または補聴器の使用有は「半分程度は得ることができる」が30.8%、人工内耳または補聴器の使用無は「半分程度は得ることができる」が47.3%で最も多い結果となっている。



回答	すべて得ることができる	ほとんど得ることができる	半分程度は得ることができる	ほとんど得ることができない	まったく得ることができない	使い方がわからない	無回答	全体
0～29歳未満=25	2	7	8	4	1	3	0	25
	8.0%	28.0%	32.0%	16.0%	4.0%	12.0%	0.0%	100.0%
30～59歳=84	20	33	26	2	0	2	1	84
	23.8%	39.3%	31.0%	2.4%	0.0%	2.4%	1.2%	100.0%
60歳以上=103	6	17	38	8	3	30	1	103
	5.8%	16.5%	36.9%	7.8%	2.9%	29.1%	1.0%	100.0%
人工内耳または補聴器使用有=104	12	31	32	10	1	17	1	104
	11.5%	29.8%	30.8%	9.6%	1.0%	16.3%	1.0%	100.0%
人工内耳または補聴器使用無=55	6	4	26	2	2	15	0	55
	10.9%	7.3%	47.3%	3.6%	3.6%	27.3%	0.0%	100.0%

■【過去調査との比較】 ※第4期調査は問1にて「手話を使って生活している方」の回答結果を反映

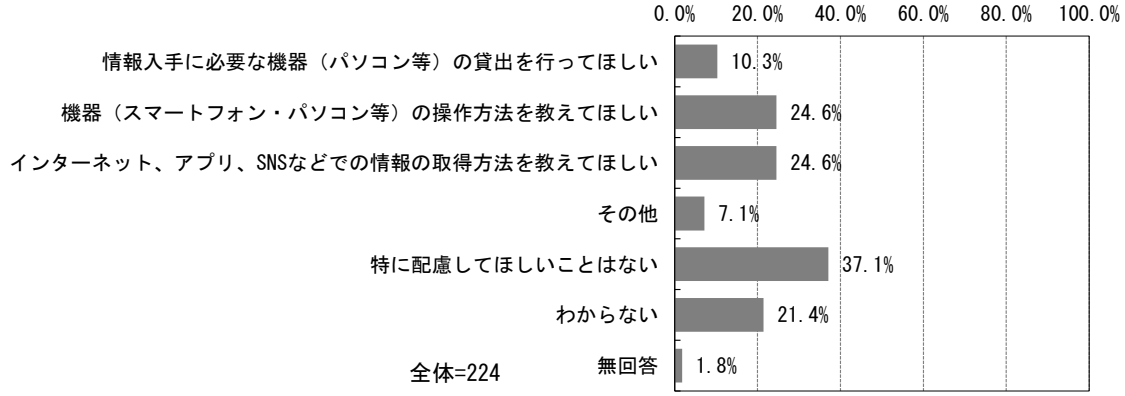
○過去調査との比較を見ると、「すべて得ることができる」、「ほとんど得ることができる」、「半分程度は得ることができる」、「使い方がわからない」が上昇している。



回答	すべて得ることができる	ほとんど得ることができる	半分程度は得ることができる	ほとんど得ることができない	まったく得ることができない	使い方がわからない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	6	31	50	16	12	34	13	162
	3.7%	19.1%	30.9%	9.9%	7.4%	21.0%	8.0%	100.0%
第４期調査（令和８年）	17	29	49	10	4	31	2	142
	12.0%	20.4%	34.5%	7.0%	2.8%	21.8%	1.4%	100.0%

問20　あなたがスマートフォンやパソコンで情報を入手する上で配慮してほしいことは何ですか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。

○情報入手の上で配慮してほしいこととしては、「特に配慮してほしいことはない」が37.1%で最も多く、次いで「機器(スマートフォン・パソコン等)の操作方法を教えてほしい」・「インターネット、アプリ、SNSなどでの情報の取得方法を教えてほしい」がそれぞれ24.6%、「わからない」が21.4%などとなっている。

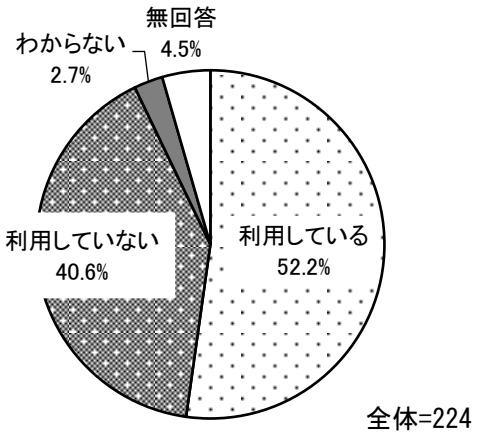


回答	情報入手に必要な機器（パソコン等）の貸出を行ってほしい	機器（スマートフォン・パソコン等）の操作方法を教えてほしい	インターネット、アプリ、SNSなどでの情報の取得方法を教えてほしい	その他	特に配慮してほしいことはない	わからない	無回答	全体
全体	23	55	55	16	83	48	4	224
	10.3%	24.6%	24.6%	7.1%	37.1%	21.4%	1.8%	100.0%

9 手話通訳者派遣等の利用状況と希望に関する質問

問21 あなたは日常生活を送るうえで、手話通訳者派遣等を利用していますか。いずれか1つに○をしてください。

○手話通訳者派遣等のサービスの利用状況としては、「利用している」が52.2%、「利用していない」が40.6%となっている。



回答	利用している	利用していない	わからない	無回答	全体
全体	117	91	6	10	224
	52.2%	40.6%	2.7%	4.5%	100.0%

【問21で「利用している」と回答した方のみ】

問21-1　以下にあげる手話通訳者派遣等それぞれについて、受けている回数にもっとも近いもの1つに○をしてください。（1、2を選択した場合は（　）内に回数を記入してください）

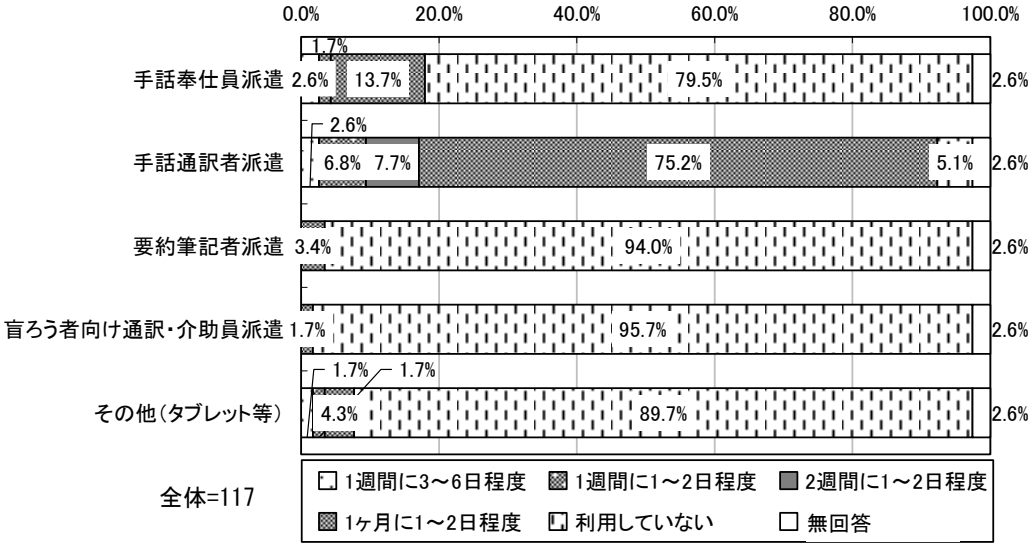
○「手話奉仕員派遣」では「利用していない」が79.5%で最も多く、次いで「1ヶ月に1～2日程度」が13.7%などとなっている。

○「手話通訳者派遣」では、「1ヶ月に1～2日程度」が75.2%で最も多く、「1週間に1～2日程度」「2週間に1～2日程度」が7.7%などとなっている。

○「要約筆記者派遣」では、「利用していない」が94.0%で最も多く、次いで「1ヶ月に1～2日程度」で3.4%となっている。

○「盲ろう者向け通訳・介助員派遣」では、「利用していない」が95.7%で最も多く、次いで「1ヶ月に1～2日程度」が1.7%などとなっている。

○「その他（タブレット等）」では、「利用していない」が89.7%で最も多く、次いで「1ヶ月に1～2日程度」が4.3%などとなっている。



手話奉仕員派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	利用していない	無回答	全体
全体	3	2	0	16	93	3	117
	2.6%	1.7%	0.0%	13.7%	79.5%	2.6%	100.0%

手話通訳者派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	利用していない	無回答	全体
全体	3	8	9	88	6	3	117
	2.6%	6.8%	7.7%	75.2%	5.1%	2.6%	100.0%

要約筆記者派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	利用していない	無回答	全体
全体	0	0	0	4	110	3	117
	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	94.0%	2.6%	100.0%

盲ろう者向け通訳・介助員派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	利用していない	無回答	全体
全体	0	0	0	2	112	3	117
	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	95.7%	2.6%	100.0%

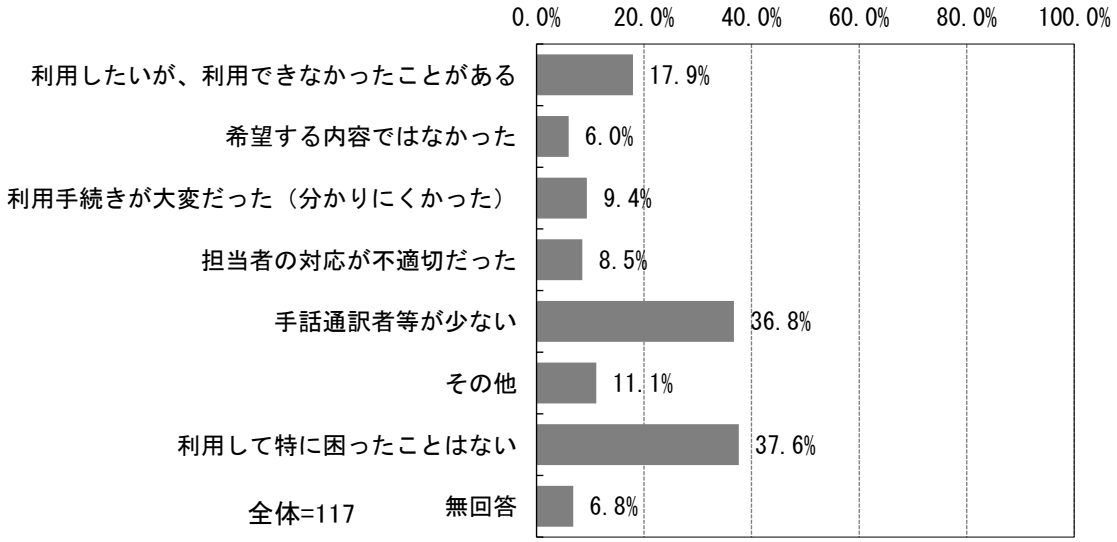
その他（タブレット等）

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	利用していない	無回答	全体
全体	2	2	0	5	105	3	117
	1.7%	1.7%	0.0%	4.3%	89.7%	2.6%	100.0%

【問21で「利用している」と回答した方のみ】

問21-2　これまで、手話通訳者派遣、要約筆記者派遣、盲ろう者向け通訳・介助員派遣を利用して、何か不便なことや困ったことはありましたか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。

○サービス利用での困りごととしては、「利用して特に困ったことはない」が37.6%で最も多く、次いで「手話通訳者等が少ない」が36.8%、「利用したいが、利用できなかったことがある」が17.9%などとなっている。



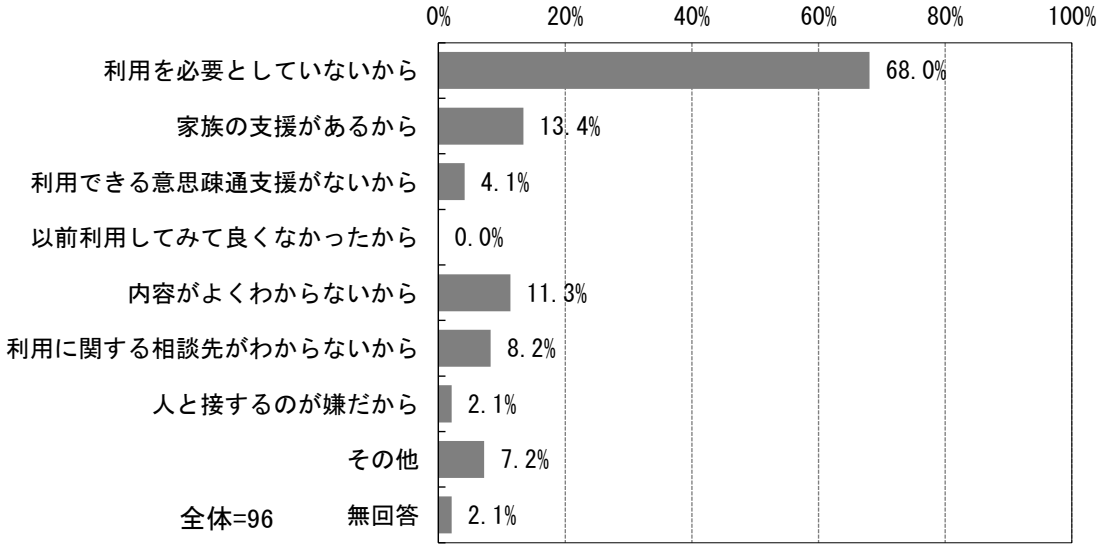
回答	利用したいが、利用できなかったことがある	希望する内容ではなかった	利用手続きが大変だった（分かりにくかった）	担当者の対応が不適切だった	手話通訳者等が少ない	その他
全体	21	7	11	10	43	13
	17.9%	6.0%	9.4%	8.5%	36.8%	11.1%

回答	利用して特に困ったことはない	無回答	全体
全体	44	8	117
	37.6%	6.8%	100.0%

【問21で「利用していない」・「わからない」と回答した方のみ】

問21-3　利用していない（利用したいと思わない、わからない）のはどうしてですか。あてはまるものに○（いくつでも）をしてください。

○サービスを利用していない理由としては、「利用を必要としていないから」が68.0%で最も多く、次いで「家族の支援があるから」が13.4%、「内容がよくわからないから」が11.3%などとなっている。

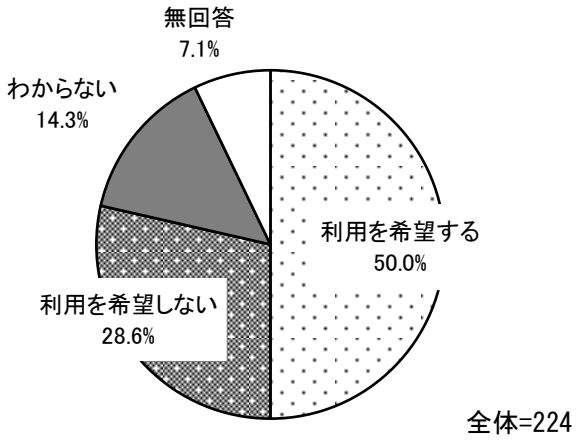


回答	利用を必要としていないから	家族の支援があるから	利用できる意思疎通支援がないから	以前利用してみて良くなかったから	内容がよくわからないから	利用に関する相談先がわからないから
全体	66	13	4	0	11	8
	68.0%	13.4%	4.1%	0.0%	11.3%	8.2%

回答	その他	無回答	全体
全体	7	2	97
	7.2%	2.1%	100.0%

問22　あなたは日常生活を送るうえで、今後、手話通訳者派遣等の利用を希望しますか。いずれか1つに○をしてください。

○今後のサービスの利用希望としては、「利用を希望する」が50.0%で最も多い。



回答	利用を希望する	利用を希望しない	わからない	無回答	全体
全体	112	64	32	16	224
	50.0%	28.6%	14.3%	7.1%	100.0%

【問22で「利用を希望する」と回答した方のみ】

問22-1　今後、手話通訳者派遣等をどれくらい利用したいですか。あてはまるもの1つに○をしてください。（1、2を選択した場合は（　）内に回数を記入してください）

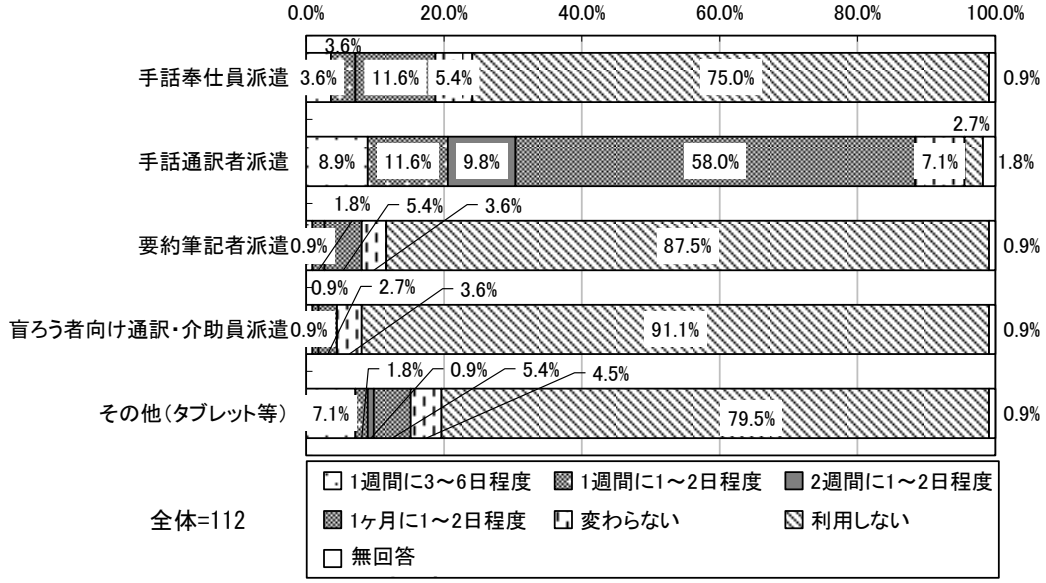
○「手話奉仕員派遣」では「利用しない」が75.0%で最も多く、次いで「1ヶ月に1～2日程度」が11.6%などとなっている。

○「手話通訳者派遣」では、「1ヶ月に1～2日程度」が58.0%で最も多く、「1週間に1～2日程度」が11.6%などとなっている。

○「要約筆記者派遣」では、「利用しない」が87.5%で最も多く、次いで「1ヶ月に1～2日程度」で5.4%となっている。

○「盲ろう者向け通訳・介助員派遣」では、「利用しない」が91.1%で最も多く、次いで「変わらない」が3.6%などとなっている。

○「その他（タブレット等）」では、「利用しない」が79.5%で最も多く、次いで「1週間に3～6日程度」が7.1%などとなっている。



手話奉仕員派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	変わらない	利用しない	無回答	全体
全体	4	4	0	13	6	84	1	112
	3.6%	3.6%	0.0%	11.6%	5.4%	75.0%	0.9%	100.0%

手話通訳者派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	変わらない	利用しない	無回答	全体
全体	10	13	11	65	8	3	2	112
	8.9%	11.6%	9.8%	58.0%	7.1%	2.7%	1.8%	100.0%

要約筆記者派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	変わらない	利用しない	無回答	全体
全体	1	2	0	6	4	98	1	112
	0.9%	1.8%	0.0%	5.4%	3.6%	87.5%	0.9%	100.0%

盲ろう者向け通訳・介助員派遣

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	変わらない	利用しない	無回答	全体
全体	1	1	0	3	4	102	1	112
	0.9%	0.9%	0.0%	2.7%	3.6%	91.1%	0.9%	100.0%

その他（タブレット等）

回答	1週間に3～6日程度	1週間に1～2日程度	2週間に1～2日程度	1ヶ月に1～2日程度	変わらない	利用しない	無回答	全体
全体	8	2	1	6	5	89	1	112
	7.1%	1.8%	0.9%	5.4%	4.5%	79.5%	0.9%	100.0%

10 災害時等に関する設問

問23 災害時の情報や避難方法、感染症の情報や感染予防など、あなたが理解していることや行っていることを教えてください。あてはまるもの1つに○をしてください。

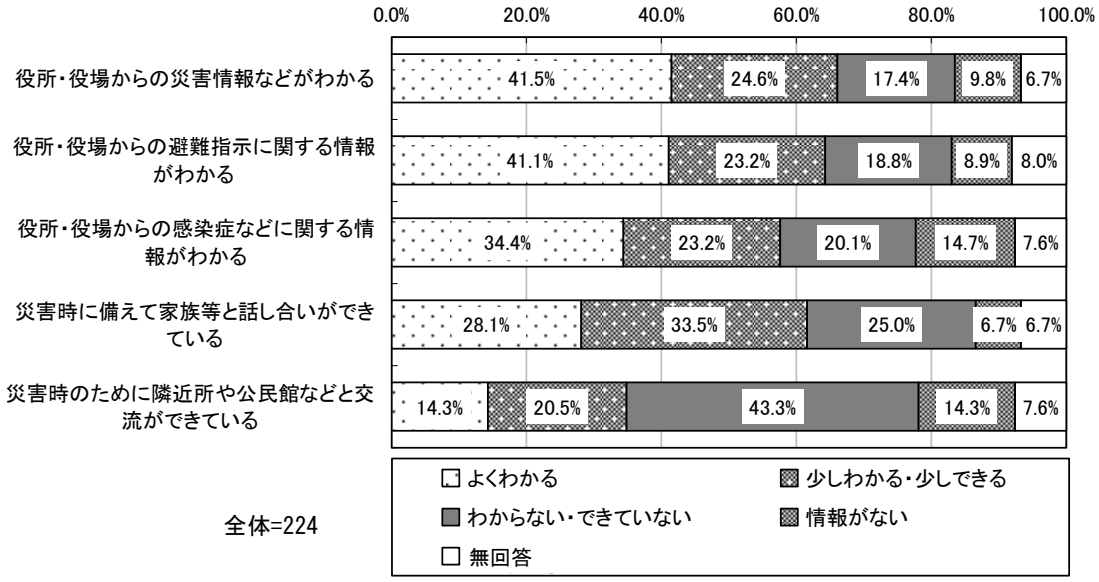
○災害時の情報の理解状況について、「役所・役場からの災害情報などがわかる」については、「よくわかる」が41.5%、「少しわかる・少しできる」が24.6%となっており、わかる人の割合は6割を超える。

○「役所・役場からの避難指示に関する情報がわかる」については、「よくわかる」が41.1%、「少しわかる・少しできる」が23.2%となっており、わかる人の割合は6割を超える。

○「役所・役場からの感染症などに関する情報がわかる」については、「よくわかる」が34.4%、「少しわかる・少しできる」が23.2%となっており、わかる人の割合は5割を超えるが、「情報がない」が14.7%となっている。

○「災害時に備えて家族等と話し合いができている」については、「よくわかる」が28.1%、「少しわかる・少しできる」が33.5%となっており、できる人の割合は6割を超える。

○「災害時のために隣近所や公民館などと交流ができている」については、「よくわかる」が14.3%、「少しわかる・少しできる」が20.5%となっており、できる人の割合は約3割に留まっている。反対に「分からない・できていない」が43.3%となっている。



■【問7 居住市町村×問23 災害時等の情報の理解状況　　クロス集計】

○居住市町村とのクロス集計結果を見ると、「役所からの災害情報がわかる」で「よくわかる」「少しわかる・少しできる」の割合が高い圏域として八重山圏域、「わからない・できていない」「情報がない」の割合が高い圏域として宮古圏域となっている。

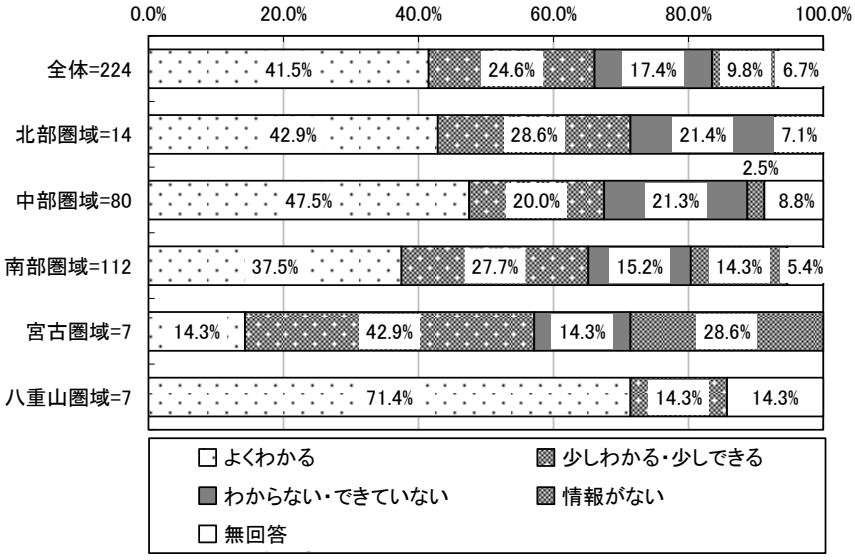
○「役場からの避難指示に関する情報がわかる」で「よくわかる」「少しわかる・少しできる」の割合が高い圏域として八重山圏域、「わからない・できていない」「情報がない」の割合が高い圏域として宮古圏域となっている。

○「役所・役場からの感染症などに関する情報がわかる」で「よくわかる」「少しわかる・少しできる」の割合が高い圏域として北部圏域、「わからない・できていない」の割合が高い圏域として中部圏域、「情報がない」の割合が高い圏域として宮古圏域となっている。

○「災害時に備えて家族等と話し合いができている」で「よくわかる」「少しわかる・少しできる」の割合が高い圏域として宮古圏域、「わからない・できていない」の割合が高い圏域として北部圏域となっている。

○「災害時のために隣近所や公民館などと交流ができている」で「よくわかる」「少しわかる・少しできる」の割合が高い圏域として宮古圏域、「わからない・できていない」の割合が高い圏域として北部圏域となっている。

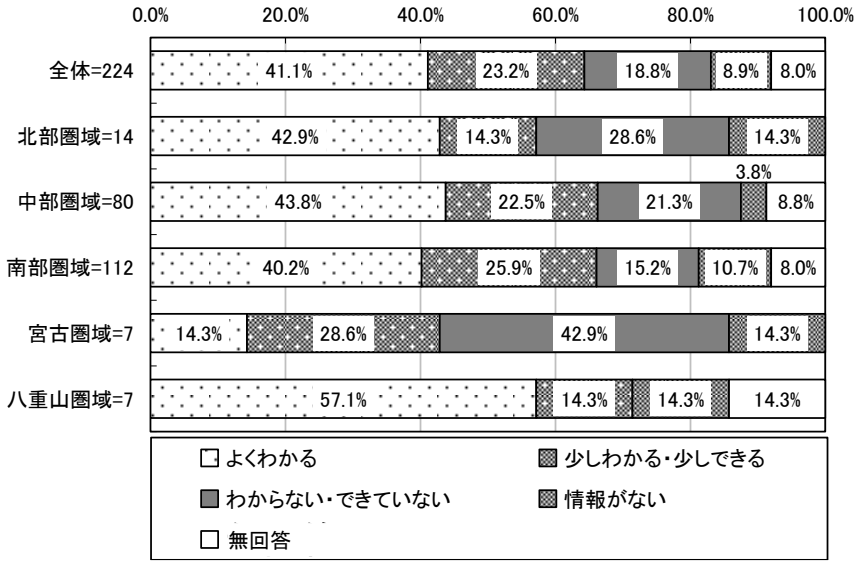
役所・役場からの災害情報などがわかる



役所・役場からの災害情報などがわかる

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
全体=224	93	55	39	22	15	224
	41.5%	24.6%	17.4%	9.8%	6.7%	100.0%
北部圏域=14	6	4	3	1	0	14
	42.9%	28.6%	21.4%	7.1%	0.0%	100.0%
中部圏域=80	38	16	17	2	7	80
	47.5%	20.0%	21.3%	2.5%	8.8%	100.0%
南部圏域=112	42	31	17	16	6	112
	37.5%	27.7%	15.2%	14.3%	5.4%	100.0%
宮古圏域=7	1	3	1	2	0	7
	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	100.0%
八重山圏域=7	5	1	0	0	1	7
	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%

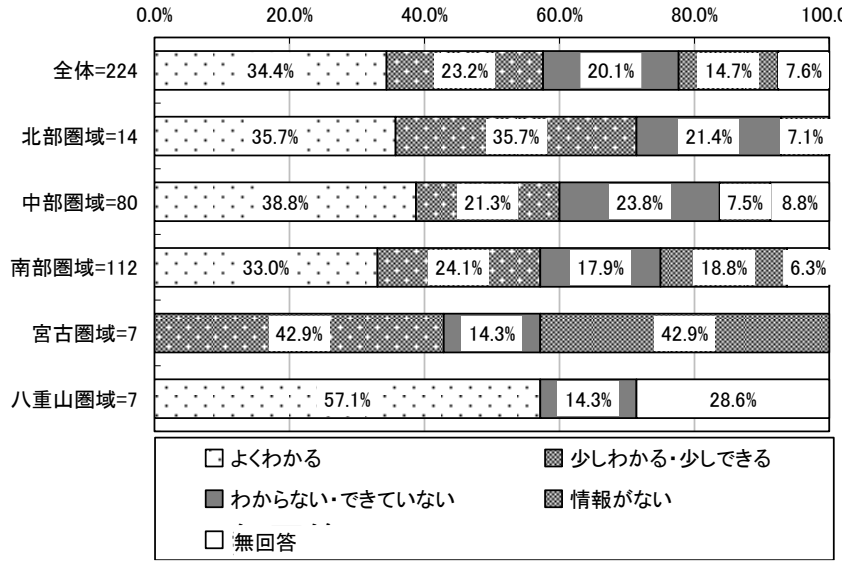
役所・役場からの避難指示に関する情報がわかる



役所・役場からの避難指示に関する情報がわかる

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
全体=224	92	52	42	20	18	224
	41.1%	23.2%	18.8%	8.9%	8.0%	100.0%
北部圏域=14	6	2	4	2	0	14
	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%
中部圏域=80	35	18	17	3	7	80
	43.8%	22.5%	21.3%	3.8%	8.8%	100.0%
南部圏域=112	45	29	17	12	9	112
	40.2%	25.9%	15.2%	10.7%	8.0%	100.0%
宮古圏域=7	1	2	3	1	0	7
	14.3%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	100.0%
八重山圏域=7	4	1	0	1	1	7
	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	100.0%

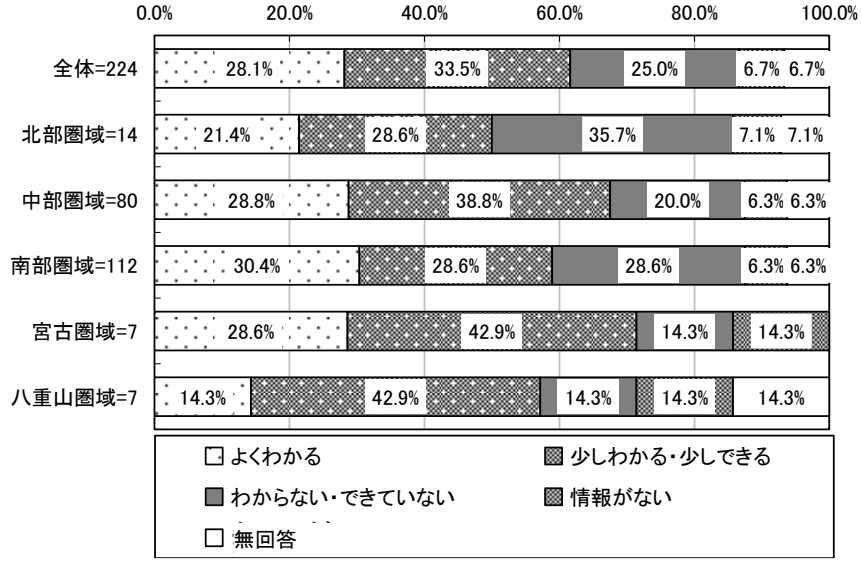
役所・役場からの感染症などに関する情報がわかる



役所・役場からの感染症などに関する情報がわかる

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
全体=224	77	52	45	33	17	224
	34.4%	23.2%	20.1%	14.7%	7.6%	100.0%
北部圏域=14	5	5	3	1	0	14
	35.7%	35.7%	21.4%	7.1%	0.0%	100.0%
中部圏域=80	31	17	19	6	7	80
	38.8%	21.3%	23.8%	7.5%	8.8%	100.0%
南部圏域=112	37	27	20	21	7	112
	33.0%	24.1%	17.9%	18.8%	6.3%	100.0%
宮古圏域=7	0	3	1	3	0	7
	0.0%	42.9%	14.3%	42.9%	0.0%	100.0%
八重山圏域=7	4	0	1	0	2	7
	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	100.0%

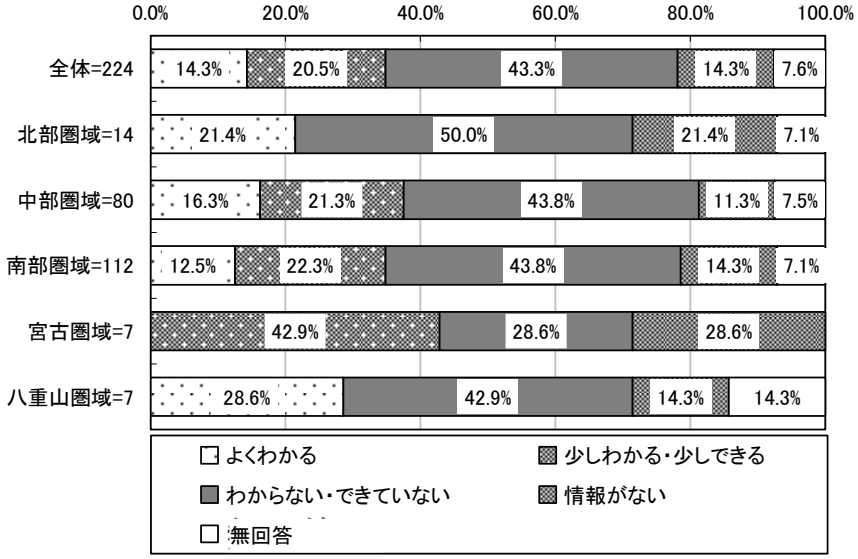
災害時に備えて家族等と話し合いができている



災害時に備えて家族等と話し合いができている

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
全体=224	63	75	56	15	15	224
	28.1%	33.5%	25.0%	6.7%	6.7%	100.0%
北部圏域=14	3	4	5	1	1	14
	21.4%	28.6%	35.7%	7.1%	7.1%	100.0%
中部圏域=80	23	31	16	5	5	80
	28.8%	38.8%	20.0%	6.3%	6.3%	100.0%
南部圏域=112	34	32	32	7	7	112
	30.4%	28.6%	28.6%	6.3%	6.3%	100.0%
宮古圏域=7	2	3	1	1	0	7
	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
八重山圏域=7	1	3	1	1	1	7
	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	14.3%	100.0%

災害時のために隣近所や公民館などと交流ができている



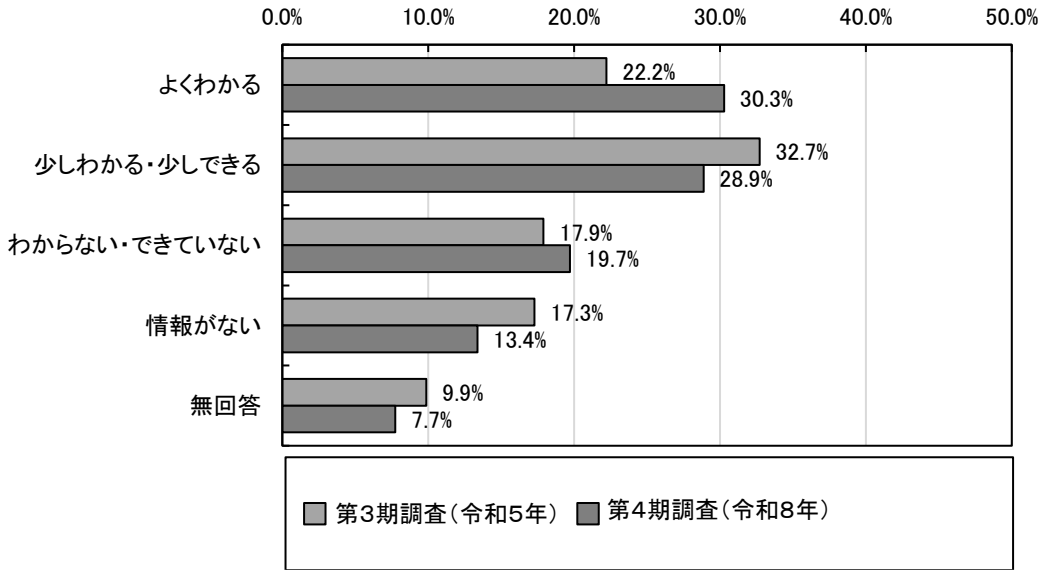
災害時のために隣近所や公民館などと交流ができている

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
全体=224	32	46	97	32	17	224
	14.3%	20.5%	43.3%	14.3%	7.6%	100.0%
北部圏域=14	3	0	7	3	1	14
	21.4%	0.0%	50.0%	21.4%	7.1%	100.0%
中部圏域=80	13	17	35	9	6	80
	16.3%	21.3%	43.8%	11.3%	7.5%	100.0%
南部圏域=112	14	25	49	16	8	112
	12.5%	22.3%	43.8%	14.3%	7.1%	100.0%
宮古圏域=7	0	3	2	2	0	7
	0.0%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	100.0%
八重山圏域=7	2	0	3	1	1	7
	28.6%	0.0%	42.9%	14.3%	14.3%	100.0%

■【過去調査との比較】 ※第4期調査は問1にて「手話を使って生活している方」の回答結果を反映

○過去調査との比較を見ると、すべての項目で「よくわかる」の割合が上昇している。

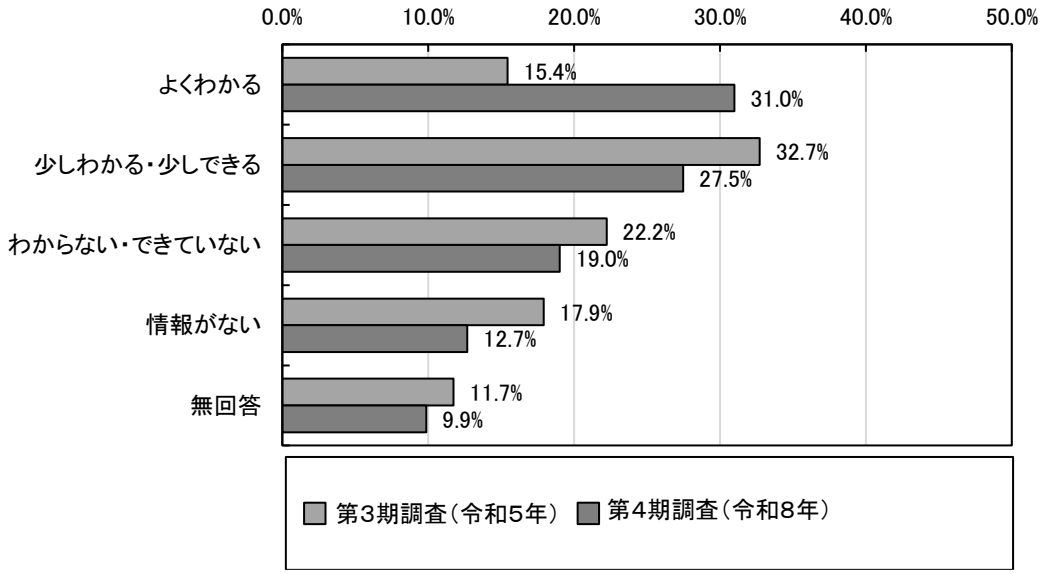
役所・役場からの災害情報などがわかる



役所・役場からの災害情報などがわかる

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	36	53	29	28	16	162
	22.2%	32.7%	17.9%	17.3%	9.9%	100.0%
第４期調査（令和８年）	43	41	28	19	11	142
	30.3%	28.9%	19.7%	13.4%	7.7%	100.0%

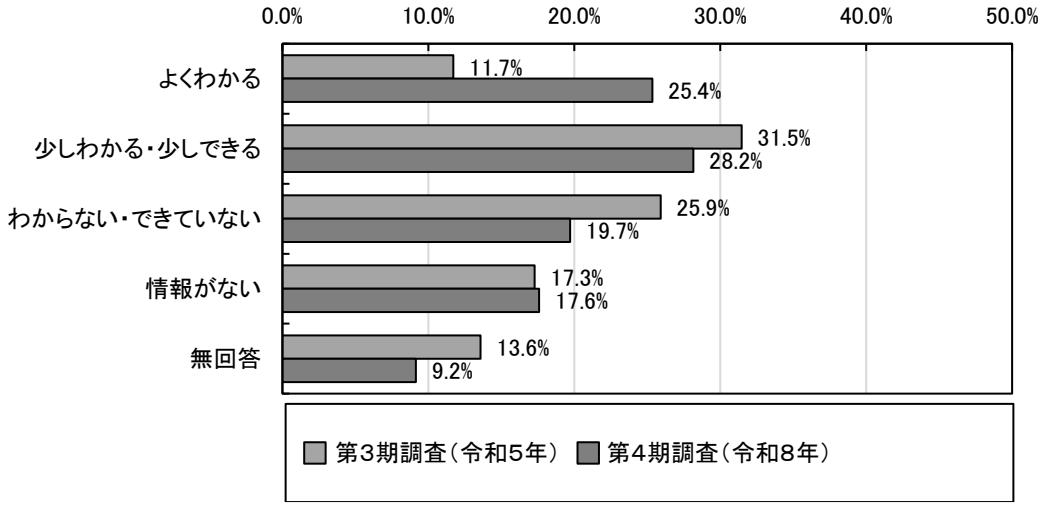
役所・役場からの避難指示に関する情報がわかる



役所・役場からの避難指示に関する情報がわかる

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	25	53	36	29	19	162
	15.4%	32.7%	22.2%	17.9%	11.7%	100.0%
第４期調査（令和８年）	44	39	27	18	14	142
	31.0%	27.5%	19.0%	12.7%	9.9%	100.0%

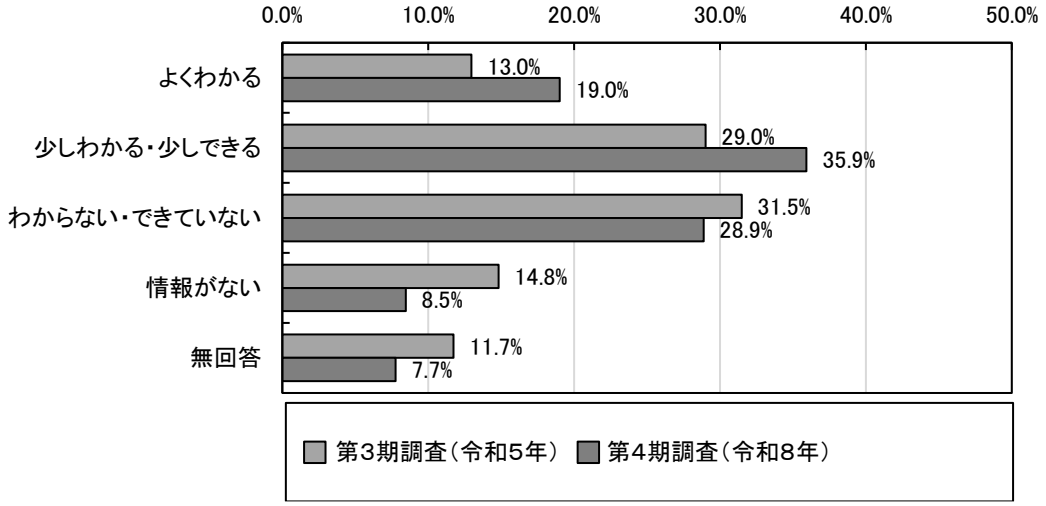
役所・役場からの感染症などに関する情報がわかる



役所・役場からの感染症などに関する情報がわかる

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	19	51	42	28	22	162
	11.7%	31.5%	25.9%	17.3%	13.6%	100.0%
第４期調査（令和８年）	36	40	28	25	13	142
	25.4%	28.2%	19.7%	17.6%	9.2%	100.0%

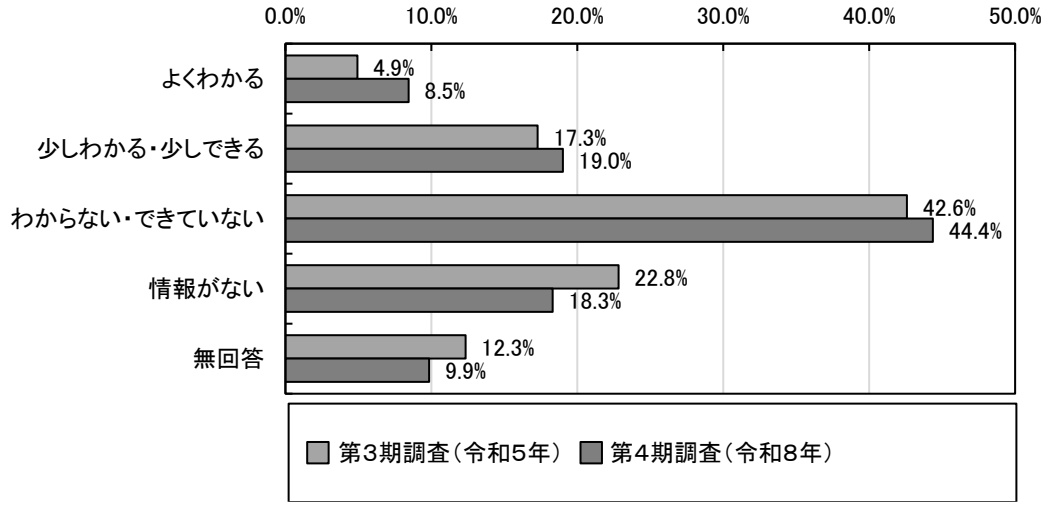
災害に備えて家族等と話し合いができている



災害時に備えて家族等と話し合いができている

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	21	47	51	24	19	162
	13.0%	29.0%	31.5%	14.8%	11.7%	100.0%
第４期調査（令和８年）	27	51	41	12	11	142
	19.0%	35.9%	28.9%	8.5%	7.7%	100.0%

災害時のために隣近所や公民館などと交流ができている

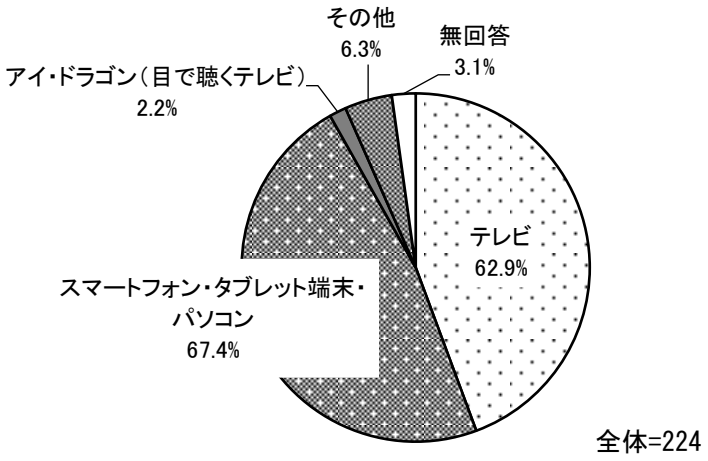


災害時のために隣近所や公民館などと交流ができている

回答	よくわかる	少しわかる・少しできる	わからない・できていない	情報がない	無回答	全体
第３期調査（令和５年）	8	28	69	37	20	162
	4.9%	17.3%	42.6%	22.8%	12.3%	100.0%
第４期調査（令和８年）	12	27	63	26	14	142
	8.5%	19.0%	44.4%	18.3%	9.9%	100.0%

問24　あなたは災害情報をどこで入手していますか。あてはまるものに○(いくつでも)をしてください。

○災害情報の入手先について、「スマートフォン・タブレット端末・パソコン」が67.4%で最も多く、次いで「テレビ」が62.9%、「アイ・ドラゴン(目で聴くテレビ)」が2.2%となっている。



回答	テレビ	スマートフォン・タブレット端末・パソコン	アイ・ドラゴン（目で聴くテレビ）	その他	無回答	全体
全体	141	151	5	14	7	224
	62.9%	67.4%	2.2%	6.3%	3.1%	100.0%